

令和2年度 東邦音楽大学大学院 シラバス

— 目 次 —

文献研究Ⅰ	3
文献研究Ⅱ	5
演奏表現研究	7
身体表現演習	9
民族音楽表現法研究	11
音楽と情報	13
ウィーンアカデミー特別研究	15
楽書研究	17
フランス語	19
アンサンブル表現研究A(伴奏法)	21
アンサンブル表現研究B(ピアノアンサンブル・室内楽)	22
鍵盤音楽史研究	23
作品研究A(バロック・古典期)	25
作品研究B(ロマン期以降)	27
アンサンブル表現研究(室内楽)	29
作品研究(室内楽)	31
管弦楽史研究	33
作品研究A—Ⅰ・Ⅱ(日本歌曲)	35
作品研究B—Ⅰ・Ⅱ(外国歌曲)	37
作品研究C—Ⅰ・Ⅱ(オペラ)	39
アンサンブル表現研究(声楽)	41
歌曲・オペラ史研究	43
作曲技法特別研究Ⅰ	45
作曲技法特別研究Ⅱ	47
管弦楽法表現研究Ⅰ・Ⅱ	49
楽曲表現研究Ⅰ・Ⅱ	51
作曲楽書特別研究	53
ピアノ特別演習Ⅰ	55
ピアノ特別演習Ⅱ	56
声楽特別演習Ⅰ	57
声楽特別演習Ⅱ	58
管弦打特別演習Ⅰ	59
管弦打特別演習Ⅱ	60
作曲特別演習Ⅰ	61
作曲特別演習Ⅱ	62



科目名(クラス)	文献研究Ⅰ		開講学期	通年	単位数	2	配当年次	1
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象・条件	全領域必修					
【授業の概要】								
音楽研究の具体的な方法を提示し、修士論文作成を支援する授業です。修士論文を完成させるためには、音楽研究の基礎的な知識や方法を身につけながら、早めにテーマを決め、研究に着手することが望まれます。授業では、研究テーマのしぼり方、参考文献の探し方と活用法、論文の構成法といった音楽研究に不可欠な知識や方法を習得し、実践する力をつけていただきます。								
【授業の到達目標】								
音楽研究の基礎的な知識や方法をふまえて、修士論文作成に向けた研究を順調に進めていくことができる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義と演習、および個人指導								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・つねに探究心をもって演奏や作曲に取り組んでください。そこから研究へのヒントが見つかります。</li> <li>・テーマは主指導教員と相談して早めに決めること。修士演奏会の曲目が決まるまでテーマが定まらない場合は、予測される作曲家・曲目の周辺から仮のテーマを設定して研究の練習台にするとよいでしょう。</li> </ul>								
授業内の課題50%(小テストあり)、研究の進捗状況30%、その他の授業内評価(研究姿勢等)20%を基準に総合的に評価。								
教科書	改訂版 音楽の文章セミナー		著者等	久保田慶一	出版社	音楽之友社		
教科書			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	音楽研究の意味 ー演奏や創作にとって音楽研究はなぜ必要なのかー			予習:これまでの音楽研究を振り返る。 復習:音楽研究をふだんの実践に取り入れる。				
第2回	研究テーマの見つけ方①			予習:教科書第3章を読んでおく。 復習:研究テーマを少しずつ絞り込んでいく。				
第3回	研究テーマの見つけ方②			同上				
第4回	文献の基礎知識① ー音楽文献の種類とその活用法ー			予習:図書館などで音楽文献を探してみる。 復習:音楽文献を活用する。				
第5回	文献の基礎知識② ー音楽文献の種類とその活用法ー			予習:図書館などで音楽文献を探してみる。 復習:音楽文献を活用する。				
第6回	文献の探し方①			予習:教科書第4章を読んでおく。 復習:文献をリサーチする。				
第7回	文献の探し方②			予習:教科書第4章を読んでおく。 復習:文献をリサーチする。				
第8回	論文不正防止に関する講座			予習:論文不正に関するニュースを調べる。 復習:講義の内容を自身の論文作成に生かす。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	文献の整理法	予習: 必要な文献を選び出しておく。 復習: 文献表を作成する。
第10回	研究の方法① -研究対象への様々なアプローチの仕方-	予習: 研究対象を想定する。 復習: 研究の方法を模索する。
第11回	研究の方法② -研究対象への様々なアプローチの仕方-	同上
第12回	研究の方法③ -研究対象への様々なアプローチの仕方-	同上
第13回	個人発表① 研究の準備状況を発表する。	予習: 現段階で必要な文献を整理しておく。 復習: これまでの成果をふまえて研究を進める。
第14回	個人発表② 研究の準備状況を発表する。	同上
第15回	前期のまとめ	予習: 前期の成果を振り返る。 復習: 夏期休業中の研究計画を立てる。
第16回	論文の構成法①	予習: 教科書第6章を読んでおく。 復習: 論文の構成を立ててみる。
第17回	論文の構成法②	同上
第18回	論文の構成法③	同上
第19回	音楽論文の講読①	予習: 配布した音楽論文を読んでおく。 復習: 音楽論文の要点を整理する。
第20回	音楽論文の講読②	同上
第21回	音楽論文の講読③	同上
第22回	音楽論文の講読④	同上
第23回	音楽論文の講読⑤	同上
第24回	音楽論文の講読⑥	同上
第25回	論文作成に向けて① -研究テーマの絞り込み、研究目的、構成の明確化-	予習: 研究テーマを絞り込んでおく。 復習: 研究目的、構成を文章にまとめる。
第26回	論文作成に向けて② -研究テーマの絞り込み、研究目的、構成の明確化-	同上
第27回	論文作成に向けて③ -研究テーマの絞り込み、研究目的、構成の明確化-	同上
第28回	個人発表①	予習: 研究テーマについて発表の準備をする。 復習: 研究テーマについて検討を重ねる。
第29回	個人発表②	同上
第30回	後期のまとめ	予習: 授業で身につけたことを振り返る。 復習: 来年度に向けて自らの研究計画を立てる。

科目名(クラス)	文献研究Ⅱ		開講学期	通年	単位数	2	配当年次	2
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象・条件	全領域必修					
【授業の概要】								
音楽研究の具体的な方法を提示し、修士論文作成を支援する授業です。各自が文献研究Ⅰで学んだ音楽研究の基礎的な知識や方法をふまえて修士論文を作成できるよう、個別指導を軸とした授業を行います。								
【授業の到達目標】								
音楽研究の基礎的な知識や方法をふまえて、期日までに修士論文を完成させる。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、演習、および個人指導。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の取り組みが基本となります。毎週何らかの進展があるようしっかり研究に取り組んでください。</li> <li>・個別指導の際には、原稿を必ずプリントアウトしてくるか、事前にメールで送ること。</li> </ul>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
修士論文の進行状況70%、その他の授業内評価(課題提出、発表、研究姿勢等)30パーセントを基準に総合的に評価。								
教科書	改訂版 音楽の文章セミナー		著者等	久保田慶一	出版社	音楽之友社		
教科書			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	修士論文のテーマ、研究目的、研究方法の確認①			予習: 研究テーマを明確にしておく。 復習: 研究内容について検討を重ねる。				
第2回	修士論文のテーマ、研究目的、研究方法の確認②			同上				
第3回	修士論文のテーマ、研究目的、研究方法の確認③			同上				
第4回	論文の構成①			予習: 教科書第6章を読んでおく。 復習: 構成について検討を重ねる。				
第5回	論文の構成②			同上				
第6回	論文の書き方: 序論①			予習: 研究目的、研究方法を確認しておく。 復習: 序論の推敲を重ねる。				
第7回	論文不正に関する講座			予習: 論文不正に関するニュースを探す。 復習: 講義の内容を自らの論文作成に生かす。				
第8回	論文の書き方: 序論②			予習: 研究目的、研究方法を確認しておく。 復習: 序論の推敲を重ねる。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	論文の書き方:本論・結論	予習:研究目的、研究方法を確認しておく。 復習:結論を予測してみる。
第10回	先行研究の活用と独創的な視点の発見①	予習:研究に必要な文献を用意する。 復習:文献を読む。
第11回	先行研究の活用と独創的な視点の発見②	同上
第12回	中間発表に向けて①	予習:序論をもとに発表原稿を作成する。 復習:推敲を重ねる。
第13回	中間発表に向けて②	同上
第14回	中間発表会	予習:序論をもとに発表原稿を作成する。 復習:発表内容に添うよう論文を作成していく。
第15回	前期のまとめ	予習:研究内容に変更はないか確認する。 復習:スケジュールを立てて研究を進める。
第16回	論文作成のためのガイダンス① -論文の書式-	予習:教科書第6章を読んでおく。 復習:書式に添って表紙、目次等を書いてみる。
第17回	論文作成のためのガイダンス② -論文の書式-	同上
第18回	個別指導①	予習:論文を書き進める。 復習:仕上げに向けて書式を整える。
第19回	個別指導②	同上
第20回	個別指導③	同上
第21回	個別指導④	同上
第22回	最終発表①	予習:論文の進捗状況を把握しておく。 復習:スケジュールを確認し、書き進める。
第23回	最終発表②	同上
第24回	個別指導⑤	予習:論文を書き進める。 復習:仕上げに向けて書式を整える。
第25回	個別指導⑥	同上
第26回	個別指導⑦	同上
第27回	個別指導⑧	同上
第28回	個別指導⑨	同上
第29回	まとめ①	予習:論文の成果を振り返る。 復習:論文の成果を修了演奏等に生かす。
第30回	まとめ②	同上

科目名(クラス)	演奏表現研究		開講学期	通年	単位数	2	配当年次	1・2
担当教員	上山 典子	履修対象・条件	詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】								
演奏家および音楽の教育者には、優れた技術や技巧だけでなく、作品や作曲家、そして曲が生み出された音楽史的背景に対する深い理解が不可欠です。本授業では毎回(あるいは複数回にわたって)ある特定のジャンルまたは作品を取り上げ、それらを深く読み込む(=作品分析を行う)と同時に、作曲家、時代の音楽的特徴・動向などにも注目していきます。								
【授業の到達目標】								
本授業では作品を深く読み込む力を養うとともに、これらを生み出した作曲家の意図や当時の時代背景、音楽社会・文化などにも目を向けることで、豊かな演奏表現力と音楽を伝える力を養うことを目指します。								
【授業の「方法」と「形式」】								
担当者による講義のほか、履修者による作品分析、作品批評や鑑賞のディスカッションにも時間を割きます。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
自身の専門分野はもちろん、そのほかの領域の作品や作曲家、時代にも、大いなる関心と興味をもって取り組むようして下さい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
各学期末のレポート課題(各学期50%)								
教科書	(毎回レジュメを配布します)	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	(授業中に随時紹介します)	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)						
第1回	バロック時代のジャンル概説	予習: 芸術史における「バロック」の意味を調べる 復習: 音楽史におけるバロックの特徴をまとめる						
第2回	バロック時代の声楽曲 : カンタータ、オラトリオ	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く						
第3回	バロック時代の器楽曲 : コンチェルト・グロッソとソロ・コンチェルト	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く						
第4回	バロック時代の器楽曲 : 組曲	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く						
第5回	バロック時代の鍵盤曲 ①	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く						
第6回	バロック時代の鍵盤曲 ②	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く						
第7回	古典派(初期古典派～ウィーン古典派)のジャンル概観	予習: 「古典派」の意味合いを調べる 復習: 音楽史における「古典派」の特徴をまとめる						
第8回	古典派の弦楽四重奏曲 ①	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く						

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	古典派の弦楽四重奏曲 ②	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第10回	古典派のピアノ・ソナタ ①	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第11回	古典派のピアノ・ソナタ ②	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第12回	古典派のピアノ・ソナタ ③	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第13回	古典派時代の交響曲 ①	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第14回	古典派時代の交響曲 ②	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第15回	古典派時代の交響曲 ③	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第16回	古典派時代の交響曲 ④	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第17回	古典派のピアノ協奏曲 ①	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第18回	古典派のピアノ協奏曲 ②	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第19回	ロマン主義時代のジャンル概観	予習: 「ロマン主義」の意味合いを調べる 復習: 「ロマン主義」時代の特徴をまとめる
第20回	19世紀のピアノ曲: 練習曲 ①	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第21回	19世紀のピアノ曲: 練習曲 ②	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第22回	19世紀のピアノ曲: ソナタ ①	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第23回	19世紀のピアノ曲: ソナタ ②	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第24回	19世紀のピアノ・チクルス ①	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第25回	19世紀のピアノ・チクルス ②	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第26回	19世紀の協奏曲 ①	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第27回	19世紀の協奏曲 ②	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第28回	19世紀後半の交響曲 ①	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第29回	19世紀後半の交響曲 ②	予習: 指定する作品を聴く 復習: 授業で取り上げた作品をもう一度聴く
第30回	バロック～古典派～19世紀の音楽ジャンルと様式変遷 まとめ	予習: 各時代の音楽史的特徴をまとめる 復習: 各時代の音楽史的流れを振り返る

科目名(クラス)	身体表現演習		開講学期	通年	単位数	2	配当年次	1
担当教員	渡辺 恵	履修対象・条件	特になし					
【授業の概要】								
<p>バレエは身体で音楽やドラマ、感性を表現します。          身体で音楽を感じ、表現する事は、美しい音楽を奏でるパフォーマンス向上に繋がります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽家としての身体づくり</li> <li>・音楽的な動き、リズム</li> <li>・西洋の作法であるバレエの様式美、エレガンスを身につけます</li> </ul>								
【授業の到達目標】								
<p>動く時に正しい姿勢が保てるようになる。          身体でリズムが体現出来るようになる。          積み重ねの効果を体感出来るようになる。          授業の中で体得したことをどう人に伝えるかディスカッションする。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
実技方式 バレエレッスンのCDを使用し、音楽に合わせてレッスンします。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<p>必ずレッスンウェアを着用し、バレエシューズを使用します。          積極的に授業に参加し、積み重ねの効果を体感して欲しいです。          バレエのDVDや舞台を観賞する機会も設けてください。</p>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<p>授業への積極的な参加。          状況に応じてレポートの提出有り。</p>								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	「バレエ用語集」	著者等		出版社	新書館			
参考文献		著者等		出版社				
【オフィスアワー】		授業時間の前後(水曜日1限)						
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	オリエンテーション							
第2回	フロアでのバレエストレッチ 姿勢 足のポジション			授業のための服装を整える				
第3回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン プリエ、タンジュ、デガジェ			練習を繰り返す				
第4回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン プリエ、タンジュ、デガジェ、ルルベ			練習を繰り返す				
第5回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン、ポールドゥブラ			練習を繰り返す				
第6回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン ポールドゥブラ、プティジャンプ			練習を繰り返す				
第7回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン、マーチ			練習を繰り返す				
第8回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン マーチ、3拍子			練習を繰り返す				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン マーチ、3拍子、シャッセ	練習を繰り返す
第10回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン シャッセ、ターン	練習を繰り返す
第11回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン 簡単な踊り	練習を繰り返す
第12回	同上	練習を繰り返す
第13回	同上	練習を繰り返す
第14回	同上	練習を繰り返す
第15回	まとめ及びディスカッション	練習を繰り返す
第16回	復習	練習を繰り返す
第17回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン	練習を繰り返す
第18回	フロアでのバレエストレッチ バーレッスン センターレッスン 簡単な踊り	練習を繰り返す
第19回	同上	練習を繰り返す
第20回	同上	練習を繰り返す
第21回	同上	練習を繰り返す
第22回	同上	練習を繰り返す
第23回	同上	練習を繰り返す
第24回	同上	練習を繰り返す
第25回	同上	練習を繰り返す
第26回	同上	練習を繰り返す
第27回	同上	練習を繰り返す
第28回	同上	練習を繰り返す
第29回	同上	練習を繰り返す
第30回	まとめ及び成果発表	練習を繰り返す

科目名(クラス)	民族音楽表現法研究		開講学期	通年	単位数	4	配当年次	1・2
担当教員	櫻田 素子	履修対象・条件						
<b>【授業の概要】</b>								
<p>・西洋音楽とは異なる特徴をもつ諸民族の音楽の表現方法について、人間の営みという観点から多角的にとらえて学び、研究します。</p> <p>・諸民族の音楽の例をいくつか演奏実習し、民俗的な手法によって習得します。</p> <p>・民族的、伝統的な手法を用いて実際に作品制作を行なうことで、演奏表現、作曲法、総合芸術のクリエイション、学習法、指導法、等に関わるグローバルな知識と技能を身につけます。</p>								
<b>【授業の到達目標】</b>								
<p>・西洋音楽とは異なる技法、美意識、価値観をもつ音楽を総合的、体感的に学ぶことにより、世界の音楽全般に関する知識を増やし、音楽表現の幅を広げる。</p> <p>・世界の諸民族に多く見られる「コミュニティ音楽」を中心に実習と研究を重ね、社会における音楽活動に必要な基礎的な技能や方法論を深く考察し、理解し、実際の作品作りや演奏、指導に生かせるようになる。</p>								
<b>【授業の「方法」と「形式」】</b>								
講義、実技、クリエイション、学生と教員によるディスカッション、視聴覚資料の視聴、グループ・ワークをバランスよく取り入れて行ないます。								
<b>【履修時の「留意点」と「心得」】</b>								
<p>・授業内で紹介する視聴覚資料を元に、関連する音楽を幅広くよく聴き、積極的に研究に取り組んでください。</p> <p>・打楽器の演奏など実技も多く行なうため、動きやすい服装で授業にのぞんでください。</p> <p>・「観察する」「受けとる」「行動する」「深く考える」、この4つを繰り返すことで自身のスキルと知識を獲得していきましょう。</p>								
<b>【成績評価の「方法」と「基準」】</b>								
<p>・レポート提出と作品発表 60%</p> <p>・毎回の授業の課題達成度と小レポート 40%</p>								
教科書	民族音楽学12の視点	著者等	徳丸吉彦 監修 増野亜子 編	出版社	音楽之友社			
教科書	授業のための日本の音楽・世界の音楽 世界の音楽編	著者等	島崎篤子 加藤富美子	出版社	音楽之友社			
参考文献	事典世界音楽の本	著者等	徳丸吉彦 他	出版社	岩波書店			
参考文献	はじめての世界音楽	著者等	柘植元一 塚田健一 編	出版社	音楽之友社			
<b>【授業計画・内容・準備学習】</b>								
回数	授 業 内 容			準 備 学 習 ( 予 習 ・ 復 習 )				
第1回	はじめに～西洋音楽と民族音楽・民俗音楽			<p>予習: シラバスを読み、内容を確認しておく。自分自身にとっての「音楽」と、日本における「音楽」の現状について考察しておく。</p> <p>復習: 授業の中で気付いた点について調べる。</p>				
第2回	「ワールド・ミュージックス」ってなんだろう			<p>予習: 「ワールド・ミュージックス＝世界音楽」について教科書など文献資料で調べる。</p> <p>復習: 授業で触れた参考文献を詳しく読む。</p>				
第3回	人間の営みとしての音楽(1) 音を聴く～環境と音楽			<p>予習: 身の周りにおける音と音楽と環境の関係性について、自分なりに考察しておく。</p> <p>復習: 授業で扱った文献や資料を詳しく再読、再視聴し、自分の考えを文章でまとめる。</p>				
第4回	人間の営みとしての音楽(2) 声・ことば			<p>予習: 声を用いた表現にはどのようなものがあるか、また、ことばの音楽への影響について、考察しておく。</p> <p>復習: 授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分の考えを文章でまとめる。</p>				
第5回	人間の営みとしての音楽(3) 身体の動き、舞踊			<p>予習: 音楽と身体の関係性について、様々な視点で自分なりに考察しておく。</p> <p>復習: 授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分の考えを文章でまとめる。</p>				
第6回	人間の営みとしての音楽(4) 道具と楽器			<p>予習: 世界にはどんな楽器があるか調べる。</p> <p>復習: 授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分の考えを文章でまとめる。</p>				
第7回	音楽の伝承と記録について(1) 学習法、指導法			<p>予習: 自身が行ってきた音楽の学習や指導された経験を振り返り、どのような方法があるか書き留める。</p> <p>復習: 授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分の考えを文章でまとめる。</p>				
第8回	音楽の伝承と記録について(2) 口頭伝承			<p>予習: 口頭伝承で音楽を学んだことがあるかどうか、自身の経験を振り返り書き留めておく。</p> <p>復習: 授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分の考えを文章でまとめる。</p>				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	音楽の伝承と記録について(3)記譜法	予習:五線譜以外の楽譜を用いた音楽を習得したことがあるか、あれば、その楽譜を持参するよう準備。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分の考えを文章でまとめる。
第10回	社会と音楽(1)儀礼や宗教における音楽	予習:「儀礼」とは何か、また、世界に存在する宗教にはどんなものがあるか、文献資料で調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分の考えを文章でまとめる。
第11回	社会と音楽(2)地域性、コミュニティ、政策<日本の伝統芸能と郷土芸能>	予習:社会を構成するコミュニティにはどんなものがあるか、国家や政策は音楽にどんな関わりがあるか、自分なりに考察し、書き出しておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分の考えを文章でまとめる。
第12回	社会と音楽(3)地域性、コミュニティ<アフリカ>	予習:アフリカ大陸、主にギニア・セネガルなどの西アフリカ地域の地理、気候、文化の基本情報を調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだリズムやフレーズを反復練習する。
第13回	社会と音楽(4)メディアとポピュラー・ミュージック<K-POP>	予習:メディアとは何か、また、現在、どんなメディアが存在するか、文献資料等で調べておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分の考えを文章でまとめる。
第14回	社会と音楽(5)美術・建築<西アジアとヨーロッパ>	予習:西アジア地域とヨーロッパの地理、気候、文化の基本情報を調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴し、自分の考えを文章でまとめる。
第15回	諸民族における音楽表現研究(1)東南アジアのゴング文化	予習:東南アジア地域の地理、気候、文化など基本情報を調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだフレーズやリズムを反復練習する。
第16回	諸民族における音楽表現研究(2)インドネシア・バリ島のガムラン(基本)	予習:バリ島の音楽芸能について調べる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだフレーズやリズムを反復練習する。
第17回	諸民族における音楽表現研究(3)インドネシア・バリ島のガムラン(アンサンブルの仕組み)	予習:前回学んだフレーズやリズムを反復練習し、身につけておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第18回	諸民族における音楽表現研究(4)インドネシア・バリ島のガムラン(アンサンブルの仕組み)	予習:前回学んだフレーズやリズムを反復練習し、身につけておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第19回	諸民族における音楽表現研究(5)インドネシア・バリ島のガムラン(アンサンブルの仕組み)	予習:前回学んだフレーズやリズムを反復練習し、アンサンブルの仕組みへの理解を深めておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第20回	諸民族における音楽表現研究(6)インドネシア・バリ島のガムラン(アンサンブル応用)	予習:前回学んだフレーズやリズムを反復練習し、アンサンブルの仕組みへの理解を深めておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第21回	諸民族における音楽表現研究(7)インドネシア・バリ島のガムラン(アンサンブル応用)	予習:前回学んだフレーズやリズムを反復練習し、アンサンブルの仕組みへの理解を深めておく。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第22回	諸民族における音楽表現研究(8)インドネシア・バリ島のガムラン(アンサンブル応用)	予習:前回学んだ楽曲を反復練習し、自分なりの方法で記譜を試みる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第23回	諸民族における音楽表現研究(9)インドネシア・バリ島のガムラン(アンサンブル応用)	予習:前回学んだ楽曲を反復練習し、自分なりの方法で記譜を試みる。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第24回	諸民族における音楽表現研究(10)インドネシア・バリ島のガムラン(アンサンブル仕上げ)	予習:前回学んだ楽曲を反復練習し、理解を深め、アンサンブルを仕上げるための準備をする。 復習:授業で紹介した文献や資料を読み、視聴する。授業で学んだ楽曲と奏法を整理し、まとめる。
第25回	民族的な表現技法を用いたコミュニティ音楽の制作実習(1)アイデア出し、構成	予習:民族的な表現技法の中で何をを用いるか、作品テーマは何にするか、考えてくる。 復習:授業内に行なった実習をもとに、作品を練り上げる。
第26回	民族的な表現技法を用いたコミュニティ音楽の制作実習(2)練習、記録	予習:作品内容を共演者にわかりやすく伝達できるよう準備してくる。 復習:授業内に行なった実習をもとに、作品を手直ししまとめる。共演者と練習をする。
第27回	民族的な表現技法を用いたコミュニティ音楽の制作実習(3)仕上げ	予習:作品の仕上げに必要な準備をする。 復習:授業内に行なった実習をもとに、作品を仕上げる。共演者と練習をする。
第28回	作品発表	予習:作った楽曲の作品趣旨、技法の解説を準備しレポートとしてまとめる。 復習:発表者の紹介した音楽、授業で扱った音楽に関連する視聴覚資料を幅広くよく見聴きする。
第29回	作品発表	予習:作った楽曲の作品趣旨、技法の解説を準備しレポートとしてまとめる。 復習:発表者の紹介した音楽、授業で扱った音楽に関連する視聴覚資料を幅広くよく見聴きする。
第30回	作品発表、まとめ	予習:作った楽曲の作品趣旨、技法の解説を準備しレポートとしてまとめる。 復習:発表者の紹介した音楽、授業で扱った音楽に関連する視聴覚資料を幅広くよく見聴きする。

科目名(クラス)	音楽と情報		開講学期	通年	単位数	2	配当年次	1・2
担当教員	田中 健次	履修対象・条件						
【授業の概要】								
<p>私たちはよく「音楽情報」という言葉を使いますが音楽情報とは何でしょうか？本授業では、音楽と情報の関係について履修者とともに考察し整理します。具体的な内容は、①情報の概念、②音楽と情報の関係、③音楽情報の収集と発信、④音楽情報を扱う企業関係者の話をきく予定です。</p>								
【授業の到達目標】								
音楽がもつ情報力、音楽と情報の関係性を理解する。そのうえで履修者自身が読み解き、発信能力を身につける。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義と演習。演習ではグループワークを経た個人発表等を行います。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
演習ではグループ和を取り入れているため、授業を欠席しないこと。継続性あるグループワークのため、欠席するとその内容の把握がむずかしくなります。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
講義では、その理解度を問う小テストを各授業で実施し、それを評価します(30%)。グループワークではそれぞれのワークで作成されたデータ等を評価します(30%)。グループワークを経ての個人発表を評価するとともに、最終レポートの提出を課し(40%)、総合的に評価します。								
教科書	授業に関連する資料は随時配布する。		著者等		出版社			
教科書			著者等		出版社			
参考文献	『メディア産業論』		著者等	湯浅正敏他	出版社	有斐閣(2006)		
参考文献			著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	シラバスをもちいたガイダンス			第2回授業の関係資料を排しますので、事前に目を通してください。				
第2回	情報とは？①			復習:授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習:第3回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。				
第3回	情報とは？②			復習:授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習:第4回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。				
第4回	音楽のなかの情報①			復習:授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習:第5回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。				
第5回	音楽のなかの情報②			復習:授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習:第6回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。				
第6回	音楽情報の現場－楽器産業の場合①			復習:授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習:第7回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。				
第7回	音楽情報の現場－楽器産業の場合②			復習:授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習:第8回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。				
第8回	音楽情報の現場－音楽ネットワーク産業の場合①			復習:授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習:第9回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	音楽情報の現場－音楽ネットワーク産業の場合②	復習:授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習:第10回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。
第10回	音楽情報の現場－録音産業の場合	復習:授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習:第11回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。
第11回	情報を物理的に捉える①	復習:授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習:第12回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。
第12回	情報と物理的に捉える②	復習:授業の振り返りのための小レポートを課します。 予習:第13回授業の関係資料を配布しますので事前に目を通してください。
第13回	音楽情報を発信する①	復習:ワークショップ振り返りの小レポートを課します。
第14回	音楽情報を発信する②	復習:ワークショップ振り返りの小レポートを課します。
第15回	まとめ	レポート提出
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		

科目名	ウィーンアカデミー特別研究
【授業計画の概要】	
<p>【目的】音楽表現と創造の実際を歴史的に検証し、参加者に完成された音楽家、芸術家として自立する為の門を開く。          【内容】高度な専攻実技レッスンの他、音楽表現と解釈の手段として様式に焦点をあてる。ここで言う様式とは芸術作品に内包される全ての要素を指し、解釈とは作品の意図を聴衆に伝える為にその要素から再創造する演奏表現法を指す。          様式的要素はリズム、旋律、和声、対位法、モチーフ、フレージング、アーティキュレーション、装飾法等であり、これ等を形式、伝統、各時代の楽器の変遷と歴史の知識で統合し、且つ演奏家自身の個性や人生との共感部分から生じる靈感と共に作品を解釈する事。</p>	
【授業の到達目標】	
音楽を学ぶ上での基礎となる普遍的要素を学び、高度な技術と芸術性を持った演奏・作品発表が出来る。	
【成績評価の方法】	
実技主体に総合的に評価します。	
【授業計画の内容】	
月	内 容
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
1	
2	
3	



科目名(クラス)	楽書研究		開講学期	通年	単位数	4	配当年次	1・2
担当教員	上山 典子	履修対象・条件	詳細は履修ガイドを参照					
【授業の概要】								
本授業では英語で書かれた音楽事典の項目、エッセイ、解説などを読み、その内容の解説を行います。例えば、 <i>The Harvard Dictionary of Music</i> や <i>The New Grove Dictionary of Music and Musicians</i> 第2版の項目(音楽史で重要とされる用語、作曲家や作品の解説、時代区分の名称)、あるいは演奏会用の楽曲解説やCDの解説書、演奏家のプロフィール、学術論文などを取り上げる予定です。ただし、履修者数、専攻、関心分野、英語力によって、内容を変更する可能性があります(履修者と相談の上、決定します)。								
【授業の到達目標】								
履修者は一年間の授業を通して英文で書かれた音楽書を読むことに慣れ、日本語の文献からだけでは得られない知識を獲得することで、音楽的視野を広げることを目指します。								
【授業の「方法」と「形式」】								
演習形式(英文楽書を履修者全員で輪読すると同時に、その内容について担当者が解説していきます)。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
本授業は履修者全員による輪読を基本に進めるため、毎回予習が必要です(辞書または電子辞書必携)。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
1) 毎回の授業で扱う楽書の事前予習状況(50%) 2) 各学期の第15回に行う筆記試験(50%)								
教科書	(毎回プリントを配布します)		著者等		出版社			
教科書			著者等		出版社			
参考文献	(授業内で適宜紹介します)		著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	【前期オリエンテーション】 『音楽事典』についての概説、および前期に講読する文献の決定			復習: 紹介された文献を整理する				
第2回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などの講読 (18世紀半ば以前①)			予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す				
第3回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などの講読 (18世紀半ば以前②)			予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す				
第4回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などの講読 (18世紀半ば以前③)			予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す				
第5回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などの講読 (18世紀後半①)			予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す				
第6回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などの講読 (18世紀後半②)			予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す				
第7回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などの講読 (18世紀後半③)			予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す				
第8回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などの講読 (19世紀前半①)			予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などの講読 (19世紀前半②)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第10回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などの講読 (19世紀前半③)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第11回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などの講読 (19世紀前半④)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第12回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などの講読 (19世紀後半①)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第13回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などの講読 (19世紀後半②)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第14回	音楽事典の項目、音楽書、楽曲解説、CD解説書などの講読 (19世紀後半③)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第15回	前期の筆記試験および内容確認 (授業前半に試験を行い、後半に履修者全員で内容確認)	予習: 試験の準備 復習: 試験の文献を読み直す
第16回	【後期オリエンテーション】 文献・解説書の紹介、および後期に講読する文献の決定	復習: 紹介された文献を整理する
第17回	英語文献から特定のテーマに基づく解説や論文の講読・議論 : 例えば、音楽史におけるエキゾティズム(異国趣味)①	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第18回	英語文献から特定のテーマに基づく解説や論文の講読・議論 : 例えば、音楽史におけるエキゾティズム(異国趣味)②	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第19回	英語文献から特定のテーマに基づく解説や論文の講読・議論 : 例えば、音楽史におけるエキゾティズム(異国趣味)③	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第20回	英語文献から特定のテーマに基づく解説や論文の講読・議論 : 例えば、音楽史におけるエキゾティズム(異国趣味)④	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第21回	英語文献から特定のテーマに基づく解説や論文の講読・議論 : 例えば、音楽史におけるエキゾティズム(異国趣味)⑤	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第22回	英語文献から特定のテーマに基づく解説や論文の講読・議論 : 例えば、19世紀サロン文化とブルジョワ階級 ①	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第23回	英語文献から特定のテーマに基づく解説や論文の講読・議論 : 例えば、19世紀サロン文化とブルジョワ階級 ②	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第24回	英語文献から特定のテーマに基づく解説や論文の講読・議論 : 例えば、19世紀サロン文化とブルジョワ階級 ③	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第25回	英語文献から特定のテーマに基づく解説や論文の講読・議論 : 例えば、19世紀サロン文化とブルジョワ階級 ④	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第26回	英語文献から特定のテーマに基づく解説や論文の講読・議論 : 例えば、音楽史におけるナショナリズム ①	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第27回	英語文献から特定のテーマに基づく解説や論文の講読・議論 : 例えば、音楽史におけるナショナリズム ②	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第28回	英語文献から特定のテーマに基づく解説や論文の講読・議論 : 例えば、音楽史におけるナショナリズム ③	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第29回	英語文献から特定のテーマに基づく解説や論文の講読・議論 : 例えば、音楽史におけるナショナリズム ④	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第30回	後期の筆記試験および内容確認 (授業前半に試験を行い、後半に履修者全員で内容確認)	予習: 試験の準備 復習: 試験の文献を読み直す

科目名(クラス)	フランス語		開講学期	通年	単位数	2	配当年次	1
担当教員	伊藤 制子	履修対象・条件						
【授業の概要】								
フランス語を読み、書き、話し、歌うための基礎の習得をめざした講義を行います。								
【授業の到達目標】								
基本的な文法、発音を理解し、自身の演奏や研究に役立てることを目標にしています。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義形式ですが、問題解答や小テストなども含みます。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
フランス語は継続が大切です。辞書、教科書を必ず持参し、毎日復習しましょう。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
講義中の取り組みの積極性、小テスト、期末テストで総合的に評価します。								
教科書	「ピエールとユゴー 三訂版」小笠原洋子著、白水社	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	辞書 現代フランス語辞典(白水社)	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	授業概要の説明			予習: シラバスを読んでおく 復習: フランス語の発音になれておく				
第2回	フランス語の発音と辞書の使い方			予習: 発音の項目をよんでおく 復習: 辞書でいろいろな言葉をひいてみる				
第3回	挨拶と不定冠詞			予習: 教科書の説明を読む 復習: 挨拶の表現を見直す				
第4回	基本動詞と数			予習: 教科書の説明を読む 復習: 10までの数をおぼえる				
第5回	これは～です の表現			予習: 教科書の説明を読む 復習: 基本表現を見直す				
第6回	定冠詞と第1群規則動詞			予習: 教科書の説明を読む 復習: er 動詞を自分で活用させてみる				
第7回	aller venir の表現			予習: 教科書の説明を読む 復習: aller venir を使えるようにする				
第8回	冠詞の縮約			予習: 教科書の説明を読む 復習: 冠詞の縮約を確認する				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	否定文	予習:教科書の説明を読む 復習:ne pas が使えるようにする
第10回	天気、体調の表現	予習:教科書の説明を読む 復習:挨拶の表現を見直す
第11回	部分冠詞と数	予習:教科書の説明を読む 復習:60までの数をおぼえる
第12回	近接未来、近接過去	予習:教科書の説明を読む 復習:近接未来、近接過去をできるようにする
第13回	複合過去1	予習:教科書の説明を読む 復習:過去の出来事を複合過去で表現してみる
第14回	前期のまとめ	予習:基本動詞、数、冠詞を確認する 復習:自己紹介の表現をみなおす
第15回	まとめと小テスト	予習:教科書の説明を読む 復習:挨拶の表現を見直す
第16回	前期の復習	予習:教科書を見直す 復習:動詞の復習をしておく
第17回	複合過去2	予習:教科書の説明を読む 復習:複合過去の確認をする
第18回	半過去	予習:教科書の説明を読む 復習:半過去と複合過去の違いを理解しておく
第19回	単純未来	予習:教科書の説明を読む 復習:冠詞の縮約を確認する
第20回	さまざまな過去の表現	予習:教科書の説明を読む 復習:冠詞の縮約を確認する
第21回	さまざまな未来の表現	予習:教科書の説明を読む 復習:冠詞の縮約を確認する
第22回	自分のことを話すために使う表現	予習:教科書の説明を読む 復習:冠詞の縮約を確認する
第23回	条件法	予習:教科書の説明を読む 復習:冠詞の縮約を確認する
第24回	接続法	予習:教科書の説明を読む 復習:冠詞の縮約を確認する
第25回	強調構文	予習:教科書の説明を読む 復習:冠詞の縮約を確認する
第26回	プログラム冊子のフランス語をよむ	予習:動詞をまとめておく 復習:フランス語文を再読しておく
第27回	オペラの歌詞を読む1	予習:該当オペラを視聴しておく 復習:歌詞を読み、内容を理解する
第28回	オペラの歌詞を読む2	予習:該当オペラを視聴しておく 復習:歌詞を読み、内容を理解する
第29回	後期のまとめ	予習:動詞をまとめておく 復習:自分のことを説明できるようにする
第30回	まとめと小テスト	予習:動詞の使い方を確認する 復習:間違えた部分を見直す

科目名(クラス)	アンサンブル表現研究A(伴奏法)	開講学期	通年	単位数	2	配当年次	1・2
担当教員	田中 梢	履修対象・条件	ピアノ領域科目				
<b>【授業計画の概要】</b>							
より高度なアンサンブルの技術を学ぶ。歌の伴奏では言葉と音楽を深く掘り下げることで伴奏の意味を理解し伴奏の技術を身に着ける。 演奏会へ向けて準備する中で伴奏に関する様々なテクニックを身に着け、ソリストたちとの音楽づくりをする。							
<b>【授業の到達目標】</b>							
室内楽奏者の基本を身に着ける。1つのチクルスを読み込み弾きこみソリストと音楽を作り上げる。							
<b>【成績評価の方法】</b>							
演奏会での演奏評価50% 平常授業での参加度・貢献度50%							
<b>【授業計画の内容】</b>							
月	内 容						
4	ガイダンス。室内楽奏者の文献を読みながら伴奏の基本を演習する。① 演奏会の曲目を選定する。演奏会へ向けて歌曲の演目を選曲しテキストを読む。						
5	室内楽奏者の文献を読みながら伴奏の基本を演習する② 演奏会へ向けてテキストを読み込み演習する。 演奏会へ向けてソリストと合わせる。						
6							
7							
8							
9							
10	室内楽奏者の文献を読みながら伴奏の基本を演習する③ 院一コンサートの為の伴奏曲を演習する。 新しい演目を選び演習する。						
11							
12							
1							
2							
3							

科目名(クラス)	アンサンブル表現研究B (ピアノアンサンブル・室内楽)	開講学期	通年	単位数	2	配当年次	1・2
担当教員	田中 梢	履修対象・条件	ピアノ領域科目				
<b>【授業計画の概要】</b>							
より高度なアンサンブルの技術を学ぶ。 ピアノアンサンブルをより深く学習することで、音楽の深さと楽しさを知り味わう。 ピアノのに入った室内楽を経験することで室内楽に必要な知識を身に付け音楽性を養う。							
<b>【授業の到達目標】</b>							
演奏会に向けて、ピアノアンサンブルを完成する。 演奏会へ向けて、室内楽曲を完成する。							
<b>【成績評価の方法】</b>							
演奏会での演奏評価50% 平常授業での参加度・貢献度50%							
<b>【授業計画の内容】</b>							
月	内 容						
4	ガイダンスとパートナーを決定する。 演奏会に向けて演目を調べ決定する。						
5	演奏会へ向けてピアノアンサンブルの演目を完成させる。 演奏会へ向けて室内楽曲の演目を完成させる。 室内楽奏者たちとの合わせをする。						
6							
7							
8							
9							
10							
11	新しいピアノアンサンブル曲を探し演習する。 新しい室内楽曲を探し演習してソリストと合わせる。						
12							
1							
2							
3							

科目名(クラス)	鍵盤音楽史研究		開講学期	通年	単位数	4	配当年次	1・2
担当教員	伊藤 制子	履修対象・条件	ピアノ領域科目					
【授業の概要】								
鍵盤音楽史についての主要な文献を読みながら、鍵盤音楽の歴史についてより深く学ぶための講義、演習を行います。								
【授業の到達目標】								
鍵盤音楽史の専門文献の購読を通じて、より深い知識を得て、各自の演奏、研究にいかすことを目標にします。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義と演習と併用し、各自に発表、課題が課せられます。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
初回到発表分担を決めますので、必ず出席してください。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
講義中に取り組みの積極性と個人発表を総合評価します。								
教科書	なし	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	講義中に紹介します	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容		準備学習(予習・復習)					
第1回	授業概要の説明		予習: シラバスを読んでおく 復習: 興味のあるテーマについて調べる					
第2回	鍵盤音楽史の基礎文献		予習: 各自文献を準備 復習: 文献の定義を理解する					
第3回	鍵盤楽器の歴史と変遷 オルガン		予習: オルガンについて調べる 復習: オルガンの仕組みを理解する					
第4回	鍵盤楽器の歴史と変遷 チェンバロ		予習: チェンバロについて調べる 復習: チェンバロの仕組みを理解する					
第5回	鍵盤楽器の歴史と変遷 ピアノ		予習: ピアノの歴史を調べる 復習: さまざまな種類のピアノを理解する					
第6回	バッハとバロック音楽		予習: バッハの奏法について調べる 復習: バッハの様式を理解する					
第7回	イタリアとフランスのバロック鍵盤作品		予習: クーブラン、スカルラッチェについて調べる 復習: バロック時代の様式について理解する					
第8回	モーツァルトと古典派の周辺		予習: モーツァルトの鍵盤作品について調べる 復習: モーツァルトの様式について理解する					

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	ベートーヴェン1	予習:ベートーヴェンの鍵盤作品について調べる 復習:ベートーヴェンの様式を理解する
第10回	ベートーヴェン2	予習:ベートーヴェン研究について調べる 復習:最新の研究について知識を得る
第11回	シューベルト	予習:シューベルトの生涯を調べる 復習:シューベルトの主要作を理解する
第12回	シューマン	予習:シューマンの生涯を調べる 復習:シューマンの主要作を理解する
第13回	ショパン研究の現在1	予習:ショパンについて調べる 復習:ショパンの奏法について知る
第14回	ショパン研究の現在2	予習:ショパンの影響について調べる 復習:ショパンの最新研究について知る
第15回	前期のまとめ	予習:これまでに読んだ文献を見直す 復習:重要事項を再度見直す
第16回	後期の概要説明	予習:シラバスを読んでおく 復習:興味のあるテーマについて調べる
第17回	リストとその周辺1	予習:リストの生涯を調べる 復習:リストの主要作を理解する
第18回	リストとその周辺2	予習:リストとその影響について調べる 復習:リスト以後の奏法について知る
第19回	ロシアピアノ音楽1	予習:チャイコフスキーについて調べる 復習:チャイコフスキーの主要作を理解する
第20回	ロシアピアノ音楽2	予習:ラフマニノフのピアノ曲について調べる 復習:ラフマニノフの奏法について知る
第21回	フランス近代音楽1	予習:フォーレ、ドビュッシー、ラヴェルの主要作について調べる 復習:近代フランスの主要作品について知る
第22回	フランス近代音楽2	予習:プーランクについて調べる 復習:プーランクの主要作について理解する
第23回	新ウィーン楽派	予習:新ウィーン楽派の歴史を調べる 復習:無調、12音技法を理解する
第24回	ピアノコンクールとその歴史	予習:ショパンコンクールの歴史を調べる 復習:日本のコンクールについて調べる
第25回	現代のピアノ奏法	予習:バルトーク、ケージらの作品を調べる 復習:プリアードピアノについて確認する
第26回	現代音楽とピアノ	予習:現代音楽史を見直す 復習:重要事項を確認
第27回	アレクサンダーテクニックと身体論	予習:アレクサンダーテクニックについて調べる 復習:身体論を再度読んでおく
第28回	各自の研究テーマについての文献発表1	予習:発表の準備 復習:重要事項の見直し
第29回	各自の研究テーマについての文献発表2	予習:発表の準備 復習:重要事項を確認
第30回	まとめ	予習:後期の項目を見直す 復習:重要事項を確認

科目名(クラス)	作品研究A(バロック・古典期)	開講学期	通年	単位数	4	配当年次	1
担当教員	伊藤 制子	履修対象・条件	ピアノ領域必修				
【授業の概要】							
バロック、古典派音楽の鍵盤作品、さらに鍵盤音楽の演奏スタイルについての多角的な講義、演習を行います。							
【授業の到達目標】							
バロック、古典派の鍵盤作品についての知識を深め、各自の演奏、研究に役立てることを目標にします。							
【授業の「方法」と「形式」】							
講義と学生の発表を併用します。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
初回到発表の分担を決めますので、必ず出席してください。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
講義中の取り組みの積極性と個人発表を総合評価します。							
教科書	なし	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献	講義中に紹介します。	著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)					
第1回	前期の概要説明	予習: シラバスを読んでおく 復習: 興味のあるテーマについて調べる					
第2回	バロック、古典派を学ぶための文献	予習: 各自文献を持参 復習: 主要文献の確認					
第3回	楽譜についての基礎知識	予習: 各自楽譜を持参 復習: 楽譜の選び方を確認					
第4回	バロック時代とは何か	予習: バロック音楽史の確認 復習: バロック期の鍵盤楽器を理解する					
第5回	バッハの生涯と作品	予習: バッハの生涯を調べる 復習: バッハの鍵盤作品の特徴を知る					
第6回	バッハの平均律	予習: 音律について調べておく 復習: 平均律の特徴を理解する					
第7回	イタリア、フランスのバロック鍵盤作品	予習: スカルラッティ、クーランについて調べる 復習: スカルラッティのソナタの特徴を理解する					
第8回	古典派の概要	予習: 古典派音楽史を調べる 復習: 古典派のスタイルを理解する					

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	モーツァルトのソナタ	予習:モーツァルトの生涯を調べる 復習:ソナタのスタイルを理解する
第10回	モーツァルトの変奏曲と協奏曲	予習:協奏曲のスタイルを調べる 復習:モーツァルトの協奏曲の特徴を知る
第11回	ベートーヴェンの概要	予習:ベートーヴェンの生涯を調べる 復習:ベートーヴェンの作曲語法を知る
第12回	ベートーヴェンのソナタと変奏曲	予習:ソナタ形式の特徴を知る 復習:ベートーヴェンの変奏曲の特徴を知る
第13回	ベートーヴェンのピアノ協奏曲	予習:ベートーヴェン時代のピアノについて知る 復習:ベートーヴェンの協奏曲の特徴を知る
第14回	前期のまとめ1	予習:前期の事項の確認 復習:時代ごとの鍵盤作品の特徴をまとめる
第15回	前期のまとめ2	予習:前期の事項の確認 復習:時代ごとの鍵盤作品の特徴をまとめる
第16回	後期の概要説明	予習:シラバスを読んでおく 復習:興味のあるテーマについて調べる
第17回	演奏研究の現在	予習:音楽文献目録を調べる 復習:最近の演奏研究を理解する
第18回	鍵盤楽器と演奏研究	予習:音楽文献目録を調べる 復習:鍵盤楽器研究を理解する
第19回	ロシアのピアノ演奏	予習:ロシアのピアニストについて調べる 復習:各演奏スタイルを理解する
第20回	フランスのピアノ演奏	予習:フランスのピアニストについて調べる 復習:各演奏スタイルを理解する
第21回	ドイツ、オーストリアのピアノ演奏	予習:ドイツ、オーストリアピアニストについて調べる 復習:各演奏スタイルを理解する
第22回	往年の名ピアニスト1	予習:往年のピアニストについて調べる 復習:戦前の演奏スタイルを理解する
第23回	往年の名ピアニスト2	予習:往年のピアニストについて調べる 復習:戦前の演奏スタイルを理解する
第24回	チェンバロ、オルガンの歴史的演奏	予習:主要な奏者を調べる 復習:現代の演奏スタイルを理解する
第25回	日本の洋楽史とピアノ演奏	予習:日本の洋楽史を調べる 復習:洋楽導入期の演奏について知る
第26回	戦後のピアニスト1	予習:戦後のピアニストについて調べる 復習:現代の演奏スタイルを理解する
第27回	戦後のピアニスト2	予習:戦後のピアニストについて調べる 復習:現代の演奏スタイルを理解する
第28回	各自の研究についての発表	予習:発表準備 復習:重要事項の確認
第29回	各自の研究についての発表	予習:発表準備 復習:重要事項の確認
第30回	後期のまとめ	予習:後期の事項の見直し 復習:バロック、古典派鍵盤音楽史の再確認

科目名(クラス)	作品研究B(ロマン期以降)	開講学期	通年	単位数	4	配当年次	2
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象・条件	ピアノ領域科目				
【授業の概要】							
<p>ピアノ領域の各自が修士論文作成のために必要な文献の購読、楽曲分析などを進め、その成果を随時発表していただきます。発表後には改善点や次回発表への道筋をともに考え、研究が順調に進むよう指導を重ねていきます。後期はより実践的に、修士論文の具体的な指導も行います。</p>							
【授業の到達目標】							
<p>作品研究の力をしっかり身につけ、修士論文のために活用できる。</p>							
【授業の「方法」と「形式」】							
<p>演習(発表中心)、個別指導</p>							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が修士論文に必要な研究内容を整理しておくこと。</li> <li>・発表の際には要点をまとめたレジュメを用意すること。</li> </ul>							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
<p>発表(レジュメの提出を含む)70%、その他の授業内評価(研究姿勢等)30%を基準に総合的に評価する。</p>							
教科書		著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)					
第1回	各自の発表テーマの設定①	予習: 修士論文に必要な研究内容を整理しておく。 復習: テーマに基づき作品研究を進める。					
第2回	各自の発表テーマの設定②	同上					
第3回	各自の発表テーマの設定③	同上					
第4回	作品研究と発表①	予習: 作品を研究し、レジュメを作成する。 復習: 研究成果を修士論文に活用する。					
第5回	作品研究と発表②	同上					
第6回	作品研究と発表③	同上					
第7回	作品研究と発表④	同上					
第8回	作品研究と発表⑤	同上					

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	作品研究と発表⑥	同上
第10回	作品研究と発表⑦	同上
第11回	作品研究と発表⑧	同上
第12回	後期の発表テーマの設定①	予習:修士論文に必要な研究内容を整理しておく。 復習:テーマに基づき作品研究を進める。
第13回	後期の発表テーマの設定②	同上
第14回	後期の発表テーマの設定③	同上
第15回	前期のまとめ	予習:研究成果を整理しておく。 復習:研究成果を修士論文に活用する。
第16回	作品研究と修士論文への活用①	予習:作品を研究し、レジュメを作成する。 復習:研究成果を修士論文に活用する。
第17回	作品研究と修士論文への活用②	同上
第18回	作品研究と修士論文への活用③	同上
第19回	作品研究と修士論文への活用④	同上
第20回	作品研究と修士論文への活用⑤	同上
第21回	作品研究と修士論文への活用⑥	同上
第22回	作品研究と修士論文への活用⑦	同上
第23回	作品研究と修士論文への活用⑧	同上
第24回	作品研究と修士論文への活用⑨	同上
第25回	作品研究と修士論文への活用⑩	同上
第26回	修士論文の仕上げと修正①	予習:作品研究が十分活用できているか確認する。 復習:修士論文全体を見直す。
第27回	修士論文の仕上げと修正②	同上
第28回	修士論文の仕上げと修正③	同上
第29回	修士論文の仕上げと修正④	同上
第30回	まとめ	予習:作品研究が十分活用できたかどうか振り返る。 復習:研究成果を今後の実践に生かす。

科目名(クラス)	アンサンブル表現研究(室内楽) 【管弦打楽器領域】	開講学期	通年	単位数	2	配当年次	1
担当教員	澤 敦	履修対象・条件	管弦打楽器領域科目				
【授業の概要】							
管弦打楽器によるアンサンブル枠に限定せず、鍵盤楽器や声楽などを加えて多様な形態について幅広く、包括的な研究を行う。 研究する楽曲については、演奏形態・編成の多様性から考慮し、編曲作品、委嘱作品が中心となる。単なるアンサンブルのトレーニングではなく、管弦打楽器によるアンサンブルの可能性について洞察していきたい。							
【授業の到達目標】							
授業内容を修得し、研究領域に於ける方向性と可能性を自ら考えられる力を習得する。							
【授業の「方法」と「形式」】							
演習形式							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
指導教員からの一方通行ではなく、学生参加型、更に学生主体型の授業とする。 授業時間だけでなく、毎回の授業に備えての「事前練習」「配付資料の研究」にも万全を期すこと。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
授業に取り組む姿勢・努力等(50%) 授業内容の理解度と実践(50%)							
教科書	教員から随時配布〔楽譜〕	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献	教員から随時レジュメで配布	著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)					
第1回	本授業の内容・目標等、概要説明 取り上げる楽曲等は履修者の楽器構成を考慮の上決定する。	各授業の準備学習をする					
第2回	管弦打楽器によるアンサンブルの演奏表現研究	同上					
第3回	同上	同上					
第4回	同上	同上					
第5回	同上	同上					
第6回	同上	同上					
第7回	同上	同上					
第8回	同上	同上					

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	同上	同上
第10回	同上	同上
第11回	同上	同上
第12回	同上	同上
第13回	同上	同上
第14回	同上	同上
第15回	同上	同上
第16回	管弦打楽器に鍵盤楽器、声楽等を加えた 複合アンサンブル演奏表現研究	同上
第17回	同上	同上
第18回	同上	同上
第19回	同上	同上
第20回	同上	同上
第21回	同上	同上
第22回	同上	同上
第23回	同上	同上
第24回	同上	同上
第25回	管弦打楽器によるアンサンブルの指導法研究	同上
第26回	同上	同上
第27回	同上	同上
第28回	同上	同上
第29回	同上	同上
第30回	本科目の総括	学んだことを振り返り実践する

科目名(クラス)	作品研究(室内楽)【管弦打領域】	開講学期	通年	単位数	4	配当年次	1
担当教員	大久保 淑人	履修対象・条件	管弦打領域科目				
【授業の概要】							
楽器の特性を重んじて、その楽器がアンサンブルの中でどういう位置を占めるのかという事を考慮しつつ、各々が演奏会の曲目を自主的に選曲し発表する。							
【授業の到達目標】							
前期と後期でそれぞれ編成の異なる室内楽の演奏発表会を実施する。 演奏の過程で、瞬時に相手の音程感、リズム感、音楽感を聴きとれる耳を持てるようにする。 理論ではなく身体的な音楽の感覚を養うことを目標とする。							
【授業の「方法」と「形式」】							
あくまでも実技を主体とする。室内楽の知識を踏まえて実技の中で体験する。							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
実際に音を出すことによって室内楽を学び、理解することを心がける。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
・室内楽に対しての心構え ・演奏の内容 ①自分の領域の完成の度合い ②均衡と融合のバランス ③作曲家の意をくんでいるか 等							
教科書	各自の選曲によるスコア、パート譜	著者等		出版社			
教科書	各自の選曲によるスコア、パート譜	著者等		出版社			
参考文献	バッハ平均律48フーガの研究 管弦楽法	著者等	福本正 ウオルター・ヒストン	出版社	音楽之友社		
参考文献	楽式論 二声対位法	著者等	石桁真礼生 池内友次郎	出版社	音楽之友社		
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	オリエンテーション			「室内楽とは何か」を考え自分なりの結論を出す			
第2回	各自の研究する作品の提示(バロック、古典からロマン) 室内楽の編成、人選の検討			作品の選択 スコアの研究			
第3回	各自の研究する作品の提示(バロック、古典からロマン) スコア読みに取りかかる			スコアの譜面を読む 音源を聴く			
第4回	作品の提示 スコアから和声の流れ、曲の構成、作曲者の意図等を読み取っていく			スコアの譜面を読む 和声、対位法に関してある程度の知識を持つ			
第5回	作品の提示			スコアの譜面読みの完成 音源の研究			
第6回	作品分析、作品の楽式、楽器への知識を深める(楽器の機能、奏法、音色等を理解する)			スコアの譜面読みの完成 音源の研究			
第7回	作品分析、演奏の前段階として作品へより一層の理解を深めていく			音源を聴き、それぞれの楽器の記譜された音が聞きとれる様にしておく			
第8回	作品演奏、研究作品の自分のパートの練習に取り組む			正確な演奏ができるよう練習する			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	作品演奏、いくつかの独奏楽器がそれぞれ対等、対立的な音楽内容をもっていることを理解する	内容の正しい理解を心がける
第10回	演奏上の講義、楽器と楽器の音が混乱に陥ることなく、バランスを考えながら演奏する	聞きとる能力が育つよう努力する 音源の研究
第11回	演奏上の講義、前回の授業内容を理解し深めていく	授業内容の確認 音源を聴く
第12回	演奏上の講義、室内楽における楽器と楽器との快い対立的対話を熟知する	授業内容を深く考え、真正な室内楽とは何であるかを理解する努力をする
第13回	今までの授業内容のより一層の深い理解を演奏に応用していく	音楽的表現への努力 音源、スコアの研究
第14回	音の均衡を失わずに自己のパートを音楽的に表現する	音楽的表現への努力 音源、スコアの研究
第15回	室内楽演奏発表会の実施 各々の責任をしっかりと果たす	音楽的表現への努力 音源、スコアの研究
第16回	室内楽の編成について	室内楽の種類について各自資料をあたり調べる 三月の研究発表演奏会にむけて室内楽の編成について研究する
第17回	二重奏曲について(Ⅰ)バイオリン二本によるこの形式は、シュポアが最も愛用した形式であり数多くの名曲があるが、その他の独奏管弦楽器とピアノによる多くの名曲についても研究する	室内楽の種類について各自資料をあたり調べる 三月の研究発表演奏会にむけて室内楽の編成について研究する
第18回	二重奏曲について(Ⅰ)バイオリン二本によるこの形式は、シュポアが最も愛用した形式であり数多くの名曲があるが、その他の独奏管弦楽器とピアノによる多くの名曲についても研究する	各自の楽器に相当する二重奏曲について研究する 各自の楽器に適した音源を聴く
第19回	二重奏曲について(Ⅱ)ミハイル・ハイドンが貴族に依頼されたバイオリンとヴィオラの二重奏曲6曲中、2曲を病気の為、モーツァルトが代わりに作曲した、この6曲を聴き比べてどの様な違いがあるか考える	左記の6曲中、モーツァルトの作曲した2曲が音楽史的に傑出した名曲であるのはなぜか各自研究する
第20回	二重奏曲について(Ⅱ)ミハイル・ハイドンが貴族に依頼されたバイオリンとヴィオラの二重奏曲6曲中、2曲を病気の為、モーツァルトが代わりに作曲した、この6曲を聴き比べてどの様な違いがあるか考える	6曲のスコアの研究 6曲の音源の研究
第21回	二重奏曲について(Ⅱ)ミハイル・ハイドンが貴族に依頼されたバイオリンとヴィオラの二重奏曲6曲中、2曲を病気の為、モーツァルトが代わりに作曲した、この6曲を聴き比べてどの様な違いがあるか考える	6曲のスコアの研究 6曲の音源の研究
第22回	三重奏曲について(Ⅰ)楽器の編成としてバイオリン、ヴィオラ、チェロは稀であるがモーツァルトの変ホ長調は逸品である。ピアノ、バイオリン、チェロは三重奏曲の編成として最も数多くの成功した作品があり、これらについて研究する	左記の作品について、できるだけ多くの作品に接する スコア、音源の研究
第23回	三重奏曲について(Ⅰ)楽器の編成としてバイオリン、ヴィオラ、チェロは稀であるがモーツァルトの変ホ長調は逸品である。ピアノ、バイオリン、チェロは三重奏曲の編成として最も数多くの成功した作品があり、これらについて研究する	左記の作品について、できるだけ多くの作品に接する スコア、音源の研究
第24回	三重奏曲について(Ⅱ)ブラームス、ベートーベンのピアノ、クラリネット、チェロによるトリオ、ブラームスのピアノ、バイオリン、ホルンによるトリオの研究	左記の3曲についての資料を集め、研究する スコア、音源の研究
第25回	三重奏曲について(Ⅱ)ブラームス、ベートーベンのピアノ、クラリネット、チェロによるトリオ、ブラームスのピアノ、バイオリン、ホルンによるトリオの研究	左記の3曲についての資料を集め、研究する スコア、音源の研究
第26回	四重奏曲について(Ⅰ)あらゆる室内楽の形式の中で、最も優れたものとされているバイオリン2本、ヴィオラ、チェロによる弦楽四重奏曲について、特にベートーベンの17曲(大フーガを含む)についての研究	左記の作品についての資料を集め研究する (音楽的な面からもアプローチする) スコア、音源の研究
第27回	四重奏曲について(Ⅰ)あらゆる室内楽の形式の中で、最も優れたものとされているバイオリン2本、ヴィオラ、チェロによる弦楽四重奏曲について、特にベートーベンの17曲(大フーガを含む)についての研究	左記の作品についての資料を集め研究する (音楽的な面からもアプローチする) スコア、音源の研究
第28回	四重奏曲について(Ⅰ)あらゆる室内楽の形式の中で、最も優れたものとされているバイオリン2本、ヴィオラ、チェロによる弦楽四重奏曲について、特にベートーベンの17曲(大フーガを含む)についての研究	左記の作品についての資料を集め研究する (音楽的な面からもアプローチする) スコア、音源の研究
第29回	四重奏曲について(Ⅰ)あらゆる室内楽の形式の中で、最も優れたものとされているバイオリン2本、ヴィオラ、チェロによる弦楽四重奏曲について、特にベートーベンの17曲(大フーガを含む)についての研究	左記の作品についての資料を集め研究する (音楽的な面からもアプローチする) スコア、音源の研究
第30回	室内楽演奏発表会の実施	室内楽の知識や理論を実技においていかに有効に活用することができるか熟思する

科目名(クラス)	管弦楽史研究		開講学期	通年	単位数	4	配当年次	1・2
担当教員	遠山 菜穂美	履修対象・条件	管弦打領域科目					
【授業の概要】								
各自の研究テーマに関わる管弦楽曲について、歴史と理論の両面から研究する授業です。学生の研究発表およびディスカッションを中心とします。また、音楽研究を教育の現場でどのように活用したら良いかについても考えていきます。								
【授業の到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の研究テーマに関わる管弦楽曲について、歴史と理論の両面から詳しく述べるができる。</li> <li>・研究内容を音楽教育の現場で活用できる。</li> </ul>								
【授業の「方法」と「形式」】								
演習(発表が中心となります)								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
各自の修士論文テーマと関連づけて、発表のテーマを考えておくこと。発表では要点をまとめたレジュメを用意してください。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
発表60%、その他の授業内評価(ディスカッションへの貢献度、研究態度など)40%								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	管弦楽史のテーマについて(概説)①			予習:管弦楽史を振り返っておく。 復習:発表テーマの案を考える。				
第2回	管弦楽史のテーマについて(概説)②			同上				
第3回	各自のテーマの決定①			予習:発表テーマの内容をまとめる。 復習:必要な文献をそろえる。				
第4回	各自のテーマの決定②			同上				
第5回	前期発表とディスカッション①			予習:テーマについて研究し、レジュメを作成する。 復習:さらに補足・修正して研究をまとめる。				
第6回	前期発表とディスカッション②			同上				
第7回	前期発表とディスカッション③			同上				
第8回	前期発表とディスカッション④			同上				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	前期発表とディスカッション⑤	同上
第10回	前期発表とディスカッション⑥	同上
第11回	前期発表とディスカッション⑦	同上
第12回	後期テーマの考察①	予習: 研究テーマと関連づけて、発表したいテーマを考えておく。 復習: テーマが決まったら研究を開始する。
第13回	後期テーマの考察②	同上
第14回	後期テーマの考察③	同上
第15回	前期のまとめ	予習: ここまでの研究成果を振り返る。 復習: 後期の発表に備えて研究を開始する。
第16回	管弦楽史のテーマについて(概説)③	予習: 修士論文のテーマと関連づけたテーマを考える。 復習: 決定したテーマについて研究を開始する。
第17回	管弦楽史のテーマについて(概説)④	同上
第18回	各自のテーマの決定③	予習: 発表テーマの内容をまとめる。 復習: 必要な文献をそろえる。
第19回	各自のテーマの決定④	同上
第20回	後期発表とディスカッション①	予習: テーマについて研究し、レジメを作成する。 復習: さらに補足・修正して研究をまとめる。
第21回	後期発表とディスカッション②	同上
第22回	後期発表とディスカッション③	同上
第23回	後期発表とディスカッション④	同上
第24回	後期発表とディスカッション⑤	同上
第25回	後期発表とディスカッション⑥	同上
第26回	後期発表とディスカッション⑦	同上
第27回	後期発表とディスカッション⑧	同上
第28回	後期発表とディスカッション⑨	同上
第29回	後期発表とディスカッション⑩	同上
第30回	まとめ	予習: ここまでの研究成果を振り返る。 復習: 研究成果を修士論文に生かす。

科目名(クラス)	作品研究A-I・II(日本歌曲)		開講学期	通年	単位数	各2	配当年次	1・2
担当教員	山崎 明美	履修対象・条件	声楽領域科目					
【授業の概要】								
日本歌曲演奏における日本語発音の在り方及び自然な表現法を、実際の歌曲演習を行う中で講義する。さらに詩の解釈、朗読を研究し、詩人、及びその文学的背景を探求し、加えて作曲家について多岐にわたる文献を参考にしつつ、その演奏法についての研究を促す。								
【授業の到達目標】								
日本歌曲の成立、発展の歴史を辿りつつ、日本歌曲演奏に必要な学識を深め、その専門的能力を持つことを目標とする。日本語演唱に必要な舞台における日本語発音の習得、日本歌曲における文学との関わりを多岐にわたる参考文献への知識を持って日本歌曲演奏を行うことが本講義の到達目標である。								
【授業の「方法」と「形式」】								
学生による研究発表とし、資料作成、発表(演奏を含む)を行う。資料についての助言、及び演奏学上の教授を行う。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
各自が積極的に課題に取り組むことが必要である。それぞれの課題を演奏するだけでなく、研究発表として捉え、十分な準備をし、資料作成すること。楽譜は各自購入のこと。購入楽譜は授業内で指示する。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
A. 授業内での研究発表(40%)、B. 資料作成(30%)、C. 試演会(30%)における研究発表、演奏、プログラム作成により評価する。 A. B. Cそれぞれの要素が必要である。								
教科書	楽譜は適宜購入のこと。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献	作曲家、詩人に関する参考文献は講義内で指示する			著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	授業についてのオリエンテーション 日本歌曲史概説				復習:日本歌曲の成立、当時の音楽事情についての知識を得ること。			
第2回	日本語歌唱法(1)				復習:歌唱の際の日本語発音の基礎を、音声学の研究、作曲家による研究、歌手による研究を知識として得たうえで理解し、美しい日本語の発音を習得。講義内で配布した資料を確実な知識とする。			
第3回	日本語歌唱法(2)				復習:朗読における基礎訓練についての知識とその演習を各自十分に身に付けることを復習の目的とする。			
第4回	文語表現の研究				復習:日本語における文語表現の読み方、および解釈に至る道筋を各自十分に身に付けることを復習の目的とする。			
第5回	瀧 廉太郎研究(1)				予習:瀧廉太郎について研究。その作曲活動、演奏活動を理解し、どのように表現するかを研究する。			
第6回	瀧 廉太郎研究(2)				予習:西洋音楽導入の歴史を把握する。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法・指導法を模索する。			
第7回	小松 耕輔研究				予習:小松耕輔について研究。その作曲活動を理解し、どのように表現するかを研究する。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法・指導法を模索する。			
第8回	梁田 貞研究				予習:梁田貞について研究。その作曲活動を理解し、どのように表現するかを研究する。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法・指導法を模索する。			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	本居 長世研究	予習:本居長世について研究。その作曲活動を理解し、どのように表現するかを研究する。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法・指導法を模索する。
第10回	信時 潔研究(1) 歌曲集「沙羅」	予習:「日本の笛」に取り組む。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第11回	信時 潔研究(2) 歌曲集「沙羅」	予習:第10回の講義に引き続き「日本の笛」に取り組む。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第12回	信時 潔研究(3) 歌曲集「沙羅」	予習:第11回の講義に引き続き「日本の笛」に取り組む。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第13回	山田 耕柞研究(1) 三木露風の詩による歌曲	予習:三木露風について研究。山田耕柞との繋がりに目を向け、どのように表現するかを研究する。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第14回	山田 耕柞研究(2) 北原白秋の詩による歌曲(1)	予習:北原白秋についての知識を得る。 復習:二人の活動を理解し、その演奏法への研究を深める。
第15回	試演会(1)	前期講義のまとめとして、グランツァールでの試演会を行う。プログラムの作成、演奏の実験を経験することで、その演奏技術、音楽性を身に付ける。
第16回	日本歌曲史概説(2)	復習:昭和期・それ以後の日本歌曲についての知識を得る。
第17回	信時潔の歌曲研究(1)	予習:信時潔について研究。歌曲集「沙羅」について学ぶ。どのように表現するかを研究する。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第18回	信時潔の歌曲研究(2)	予習:第17回の講義に引き続き「沙羅」にとりくむ。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第19回	信時潔の歌曲研究(3)	予習:第18回の講義に引き続き「沙羅」にとりくむ。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第20回	信時潔の歌曲研究(4)	復習:信時潔の音楽活動、求めた音楽を理解し、作品に取り組む。
第21回	中山晋平・杉山長谷夫の歌曲研究	予習:中山晋平、杉山長谷夫についての基礎知識を得る。 復習:それぞれの作曲家を理解し、表現の道を探る。
第22回	藤井清水の歌曲研究(1)	予習:藤井清水について研究する。 復習:藤井清水についての理解を深め、表現の道を探る。
第23回	藤井清水の歌曲研究(2)	予習:藤井清水の作風を研究する。 復習:藤井清水の作風を理解し、日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、表現の道を探る。
第24回	弘田龍太郎の歌曲研究(1)	予習:弘田龍太郎について研究する。 復習:弘田龍太郎の作風を理解し、表現の道を探る。
第25回	弘田龍太郎の歌曲研究(2)	予習:当時の童謡運動についての知識を深める。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第26回	成田為三の歌曲研究	予習:成田為三について研究。どのように表現するかを研究する。 復習:日本語の扱い方、旋律線の特徴を理解し、その演奏法を模索する。
第27回	近衛秀麿の歌曲研究(1)	予習:近衛秀麿について研究。 復習:日本音楽科医に果たした役割を理解する。その作品の表現法を研究する。
第28回	近衛秀麿の歌曲研究(2)	予習:近衛秀麿の歌曲作品を引き続き、研究する。 復習:作品の時代的背景を含め理解すること。
第29回	試演会に向けてのリハーサル	予習:後期課題の演奏に取り組む。 復習:演奏の完成に向けての演習を積む。
第30回	試演会	後期講義のまとめとして、非公開での試演会を行う。演奏の実験を経験することで、その演奏技術、音楽性を身に付け、この講義の集大成とする。

科目名(クラス)	作品研究B- I・II (外国歌曲)	開講学期	通年	単位数	各2	配当年次	1・2
担当教員	片岡 啓子	履修対象・条件	声楽領域科目				
<b>【授業の概要】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌曲の演奏表現を主に詩的解釈、歴史的変遷をイタリア歌曲を課題として研究・実践していく。</li> <li>・前期はベルカント期の作曲家作品とヴェルディまでの作品を課題とする。</li> <li>・後期はそれ以降の作曲家による近代歌曲を課題とする。</li> </ul>							
<b>【授業の到達目標】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベルカントから近代までの歌曲を演奏し、又他者の演奏を聞く事により、イタリア音楽に対する深い理解を得る。</li> <li>・将来の演奏に活用する。</li> </ul>							
<b>【授業の「方法」と「形式」】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自に課題の曲を決め、演奏する者は演奏し、それ以外は聴く形式。</li> </ul>							
<b>【履修時の「留意点」と「心得」】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏実践を通しての学習が主になるので事前の準備を良くする。</li> <li>・発表会には必ず参加の事。(10月～11月に行う)</li> </ul>							
<b>【成績評価の「方法」と「基準」】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の授業における積極性とテーマに取り組む努力(50%)</li> <li>・発表会での実践・到達等(50%)</li> </ul>							
教科書	曲決めの際に、その都度提示する	著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献	主に楽譜は、リコルディ社、全音楽譜、音楽之友社 ドレミ出版等	著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
<b>【授業計画・内容・準備学習】</b>							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	曲決めのための試唱 (各自、自由曲を試唱)			試唱をふり返る			
第2回	前期課題の研究 (ロッシーニ、ベッリーニ、ドニゼッティ、ヴェルディから選ぶが更に前の時代を選ぶ事もある)			読譜			
第3回	前期課題の研究①			詩を読んでくる 原語の理解			
第4回	前期課題の研究②			詩を読んでくる 原語の理解			
第5回	前期課題の研究③			詩を読んでくる 原語の理解			
第6回	前期課題の研究④			詩を読んでくる 原語の理解			
第7回	前期課題の研究⑤			進度によっては課題を追加していく			
第8回	前期課題の研究⑥			進度によっては課題を追加していく			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	まとめ	前期課題のまとめ
第10回	まとめ	前期課題のまとめ
第11回	後期の課題曲を決める① (トステイ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ＝フェラーリ、レスピーギ、ボンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	読譜
第12回	後期の課題曲を決める② (トステイ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ＝フェラーリ、レスピーギ、ボンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	読譜
第13回	後期の課題曲を決める③ (トステイ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ＝フェラーリ、レスピーギ、ボンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	読譜
第14回	後期の課題曲を決める④ (トステイ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ＝フェラーリ、レスピーギ、ボンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	読譜
第15回	後期の課題曲を決める⑤ (トステイ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ＝フェラーリ、レスピーギ、ボンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	読譜
第16回	後期の課題曲を決める⑥ (トステイ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ＝フェラーリ、レスピーギ、ボンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	原語の理解 詩を読んでくる
第17回	後期の課題曲を決める⑦ (トステイ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ＝フェラーリ、レスピーギ、ボンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	詩を読んでくる
第18回	後期の課題曲を決める⑧ (トステイ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ＝フェラーリ、レスピーギ、ボンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	進度によっては新たな課題を提示していく
第19回	後期の課題曲を決める⑨ (トステイ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ＝フェラーリ、レスピーギ、ボンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	進度によっては新たな課題を提示していく
第20回	後期の課題曲を決める⑩ (トステイ、ザンドナイ、マスカーニ、チマーラ、ドナウディ、 ヴォルフ＝フェラーリ、レスピーギ、ボンチェッリ、レオンカヴァッロ他より選ぶ)	進度によっては新たな課題を提示していく
第21回	最終的な演奏会への曲を選ぶ	暗譜 資料作成
第22回	まとめ	暗譜 資料作成
第23回	まとめ	暗譜 資料作成
第24回	発表会の通し練習	暗譜 資料作成
第25回	研究発表会	発表をふり返る
第26回	研究発表会の講評と課題曲を選ぶ	発表をふり返る
第27回	研究発表会の成果を基に、更に合った演奏表現の研究①	楽曲を研究する
第28回	研究発表会の成果を基に、更に合った演奏表現の研究②	楽曲を研究する
第29回	研究発表会の成果を基に、更に合った演奏表現の研究③	楽曲を研究する
第30回	まとめ	授業をふり返る

科目名(クラス)	作品研究C- I・II (オペラ)		開講学期	通年	単位数	各2	配当年次	1・2
担当教員	片岡 啓子	履修対象・条件	声楽領域科目					
【授業の概要】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・オペラは時代と作曲家により大きく異なる歌唱様式持つが、より高度な表現力・技術・解釈の実践的研究。</li> <li>・他者の演奏を聞き、より多くのオペラを知る。</li> </ul>						
【授業の到達目標】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・オペラは自分の声が、どのような役柄に合っているか、又その役柄を演奏する上で必要な準備・技術・解釈などを正確に知り、将来のレパートリー作りに活用する。</li> </ul>						
【授業の「方法」と「形式」】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自に課題曲を決め、発表の際には、オペラの内容・背景と実践をする。</li> <li>・本講座ではオペラアリアのみを課題とする。</li> </ul>						
【履修時の「留意点」と「心得」】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏実践を通しての学習が主になるので事前の準備を良くする。</li> <li>・研究発表会には必ず参加の事(10、11月に行う)。</li> </ul>						
【成績評価の「方法」と「基準」】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の授業時における積極性、努力(50%)</li> <li>・研究発表会での実践・到達等(50%)</li> </ul>						
教科書			著者等			出版社		
教科書			著者等			出版社		
参考文献	曲決めの際に提示する (ペーレンライター版、リユルディ版、その他)		著者等			出版社		
参考文献			著者等			出版社		
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容				準備学習(予習・復習)			
第1回	各自のレパートリーを知るために試唱する (前期はモーツァルトを含むロマン派オペラアリアを選ぶ)				試唱結果をふり返る			
第2回	各自のレパートリーを知るために試唱する				試唱結果をふり返る			
第3回	課題の実践研究				読譜			
第4回	課題の研究①				課題の読譜 原語の理解 オペラの背景			
第5回	課題の研究②				課題の読譜 原語の理解 オペラの背景			
第6回	課題の研究③				課題の読譜 原語の理解 オペラの背景			
第7回	課題の研究④				進度によっては課題を追加していく			
第8回	課題の研究⑤				内容理解の為の背景、物語等を調べる			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	課題の研究⑥	内容理解の為の背景、物語等を調べる
第10回	課題の研究⑦	内容理解の為の背景、物語等を調べる
第11回	課題の研究⑧	内容理解の為の背景、物語等を調べる
第12回	課題の研究⑨	内容理解の為の背景、物語等を調べる
第13回	後期の課題を選ぶ① (前期に学んだ時代以降、ヴェリズモ・近代オペラまでで選曲)	読譜、原語理解、オペラの背景・ストーリー
第14回	後期の課題を選ぶ② (前期に学んだ時代以降、ヴェリズモ・近代オペラまでで選曲)	読譜、原語理解、オペラの背景・ストーリー
第15回	後期の課題を実践する	読譜、原語理解、オペラの背景・ストーリー
第16回	後期課題の研究①	課題の読譜 原語の理解 オペラの背景
第17回	後期課題の研究②	課題の読譜 原語の理解 オペラの背景
第18回	後期課題の研究③	課題の読譜 原語の理解 オペラの背景
第19回	後期課題の研究④	進度によっては、新たな課題を提示していく 研究発表に向けて資料の作成
第20回	後期課題の研究⑤	暗譜 資料作成
第21回	後期課題の研究⑥	暗譜 資料作成
第22回	後期課題の研究⑦	暗譜 資料作成
第23回	研究発表会の為の実践①	暗譜 資料作成
第24回	研究発表会の為の実践②	暗譜 資料作成
第25回	発表会の通し練習	暗譜 資料作成
第26回	発表会	暗譜 資料作成
第27回	研究発表会の講評と成果を基に更に各自に合った演奏表現の研究①	自己の演奏をふり返り課題をつかむ
第28回	研究発表会の講評と成果を基に更に各自に合った演奏表現の研究②	自己の演奏をふり返り課題をつかむ
第29回	研究発表会の講評と成果を基に更に各自に合った演奏表現の研究③	自己の演奏をふり返り課題をつかむ
第30回	まとめ	年間をふり返る

科目名(クラス)	アンサンブル表現研究(声楽)	開講学期	通年	単位数	2	配当年次	1・2
担当教員	片岡 啓子	履修対象・条件	声楽領域科目				
【授業の概要】							
・音楽表現上、重要な要素であるアンサンブルの様式と歌唱について、演技を含めての実践的研究。							
【授業の到達目標】							
・オペラの一部分ではあるが、実践して(歌唱・内容理解・演技)オペラとは何か！を体験し、将来に向けてより深く活用していく。							
【授業の「方法」と「形式」】							
・オペラの重唱のアンサンブル(特にモーツァルトを中心にロマン派等)							
【履修時の「留意点」と「心得」】							
・オペラアンサンブルは共演者と協力し合って準備して行う。							
【成績評価の「方法」と「基準」】							
・通常の授業における取り組み方と試演会でのパフォーマンスを総合的に評価する。							
教科書		著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】							
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)			
第1回	演目を決める為の試唱を行う			試唱をふり返る			
第2回	演目の楽譜等の作成準備			譜読み			
第3回	音楽練習			譜読み			
第4回	音楽練習			譜読み、原語理解			
第5回	音楽練習			譜読み、原語理解			
第6回	音楽練習			譜読み、原語理解			
第7回	音楽練習			譜読み、原語理解			
第8回	音楽練習			譜読み、原語理解			

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	音楽練習	譜読み、原語理解
第10回	音楽練習	譜読み、原語理解
第11回	音楽練習	譜読み、原語理解
第12回	音楽練習	暗譜
第13回	音楽練習	暗譜
第14回	音楽のみの試演会	暗譜
第15回	演出付き研究	原語理解
第16回	演出付き研究	原語理解
第17回	演出付き研究	原語理解
第18回	演出付き研究	原語理解
第19回	演出付き研究	原語理解
第20回	演出付き研究	原語理解
第21回	演出付き研究	原語理解
第22回	演出付き研究	原語理解
第23回	演出付き研究	原語理解
第24回	演出付き研究	原語理解
第25回	演出付き研究	原語理解
第26回	演出付き研究	原語理解
第27回	試演会の為の練習	試演会への準備
第28回	試演会	試演会への準備
第29回	講評	演奏をふり返る
第30回	まとめ	授業をふり返る

科目名(クラス)	歌曲・オペラ史研究		開講学期	通年	単位数	4	配当年次	1・2
担当教員	伊藤 制子	履修対象・条件	声楽領域科目					
【授業の概要】								
オペラ史を概観し、歌唱スタイル、主要作品の特徴、また現代のオペラ界の現況などを扱います。								
【授業の到達目標】								
オペラについての深い知識を身につけ、演奏、研究に役立てることを目的とします。								
【授業の「方法」と「形式」】								
講義、演習、ディスカッションを併用します。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
初回到課題の分担を決めますので、必ず出席してください。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
講義中の取り組みの積極性、発表で総合評価します。年間で6回程度、発表、課題提出が課されます。								
教科書	なし	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	講義中に紹介します	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	年間計画の説明			予習:シラバスを読んでおく 復習:自分の発表分担を確認				
第2回	オペラを学ぶための文献			予習:各自文献を持参 復習:文献の概念を確認				
第3回	オペラの楽譜			予習:楽譜を各自持参 復習:自分の発表分担を確認				
第4回	オペラ劇場の現在:ヨーロッパ			予習:劇場の概要を調べておく 復習:劇場の特性を知る				
第5回	オペラ劇場の現在:アメリカ			予習:劇場の概要を調べておく 復習:劇場の特性を知る				
第6回	オペラ劇場の現在:日本			予習:日本の現況を調べておく 復習:自分の発表分担を確認				
第7回	現代オペラと劇場			予習:現代オペラの歴史を調べておく 復習:現代の劇場文化を確認しておく				
第8回	バロックオペラの世界1			予習:バロック音楽史を調べておく 復習:モンテヴェルディの特性を確認				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	バロックオペラの世界2	予習:ラモーについて調べる 復習:ラモーのオペラの特性を確認
第10回	ベルカントの歴史	予習:ベルカントの定義を調べる 復習:ベルカントオペラの特性を確認
第11回	往年の名歌手:ソプラノ	予習:カラス、テヴァルディについて調べる 復習:歌手の特性を理解する
第12回	往年の名歌手:メゾ	予習:シミオナートについて調べる 復習:歌手の特性を理解する
第13回	往年の名歌手:テノール	予習:デルモナコ、コレリについて調べる 復習:歌手の特性を理解する
第14回	往年の名歌手:バリトン	予習:バステアニーニについて調べる 復習:歌手の特性を理解する
第15回	前期のまとめ	予習:前期の項目を見直す 復習:重要事項を確認
第16回	演出とは	予習:演出の定義を調べる 復習:演出の歴史を確認
第17回	現代の演出家1	予習:ゼッフィレッリについて調べる 復習:講義で取り上げた作品を再確認
第18回	現代の演出家2	予習:デッカーについて調べる 復習:講義で取り上げた作品を再確認
第19回	現代の演出家3	予習:カーセンについて調べる 復習:講義で取り上げた作品を再確認
第20回	個人発表:演出	予習:発表の準備 復習:取り上げた作品を再確認
第21回	個人発表:演出	予習:発表の準備 復習:取り上げた作品を再確認
第22回	歌曲の歴史:ドイツ	予習:ドイツ歌曲の歴史を見直す 復習:主要作品を確認
第23回	歌曲の歴史:フランス	予習:フランス歌曲の歴史を見直す 復習:主要作品を確認
第24回	歌曲の歴史:イタリア	予習:イタリア歌曲の歴史を見直す 復習:主要作品を確認
第25回	歌曲の歴史:日本	予習:日本歌曲の歴史を見直す 復習:主要作品を確認
第26回	オラトリオ、カンタータの歴史	予習:バッハのカンタータについて調べる 復習:バッハの主要作の特徴を理解する
第27回	現代の歌唱スタイル:個人発表	予習:発表準備 復習:重要事項の確認
第28回	現代の歌唱スタイル:個人発表	予習:発表準備 復習:重要事項の確認
第29回	まとめと補足	予習:後期の項目を見直す 復習:重要事項を確認
第30回	まとめと補足	予習:後期の項目を見直す 復習:重要事項を確認

科目名(クラス)	作曲技法特別研究 I		開講学期	通年	単位数	2	配当年次	1
担当教員	井上 淳司	履修対象・条件	作曲領域は必修。作曲領域科目					
【授業の概要】								
作曲を実践するにあたって、歴史的変遷を踏まえた過去の作曲技法を現代に生かすため、あらゆる角度の視点から考察する訓練を行いたい。								
【授業の到達目標】								
既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし、現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。								
【授業の「方法」と「形式」】								
各自が持ち寄った曲を中心に、学生個々の技法に結びつけて議論を進めながら、作曲に対する意識も高めて行きたい。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
研究を各自が独自に行い、さまざまな視点による見解を持って切磋琢磨する場を作って欲しい。そのための準備を怠らないよう積極的な授業態度を希望する。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
平常研究50%、レポート50%。								
教科書	特になし	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	その都度譜面等を用意すること	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	ロマン派初期の音楽の書法			既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。				
第2回	ロマン派初期の音楽の書法			既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。				
第3回	和声法と対位法の研究			18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。				
第4回	和声法と対位法の研究			18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。				
第5回	シューベルト、ベートーヴェンを中心に1800年前後のヨーロッパの音楽(ドイツ、オーストリア、イタリア、フランス、等)			ドイツ以外のオーストリア、イタリア、フランス、等の音楽の状況を把握する。				
第6回	シューベルト、ベートーヴェンを中心に1800年前後のヨーロッパの音楽(ドイツ、オーストリア、イタリア、フランス、等)			ドイツ以外のオーストリア、イタリア、フランス、等の音楽の状況を把握する。				
第7回	シューベルト、ベートーヴェンを中心に1800年前後のヨーロッパの音楽(ドイツ、オーストリア、イタリア、フランス、等)			ドイツ以外のオーストリア、イタリア、フランス、等の音楽の状況を把握する。				
第8回	バッハの対位法研究			学習対位法との相違及び対位法的が曲全体の構成や構造にどう関わるかを考察する。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	バッハの対位法研究	学習対位法との相違及び対位法的が曲全体の構成や構造にどう関わるかを考察する。
第10回	バッハの対位法研究	学習対位法との相違及び対位法的が曲全体の構成や構造にどう関わるかを考察する。
第11回	バッハの厳格フーガ研究	学習フーガとの相違及び「フーガの技法」より厳格フーガの考察をする。
第12回	バッハの厳格フーガ研究	学習フーガとの相違及び「フーガの技法」より厳格フーガの考察をする。
第13回	バッハの厳格フーガ研究	学習フーガとの相違及び「フーガの技法」より厳格フーガの考察をする。
第14回	後期ロマン派～近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。
第15回	後期ロマン派～近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。
第16回	後期ロマン派～近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。
第17回	後期ロマン派～近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。
第18回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第19回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第20回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第21回	ヨーロッパの前衛音楽(ドイツ、オーストリア、イタリア、フランス、ポーランド、ベルギー等)	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第22回	ヨーロッパの前衛音楽(ドイツ、オーストリア、イタリア、フランス、ポーランド、ベルギー等)	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第23回	ヨーロッパの前衛音楽(ドイツ、オーストリア、イタリア、フランス、ポーランド、ベルギー等)	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第24回	ロシアおよび北欧の前衛音楽	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第25回	ロシアおよび北欧の前衛音楽	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第26回	アメリカ大陸の前衛音楽	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第27回	アメリカ大陸の前衛音楽	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第28回	日本の前衛音楽	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第29回	日本の前衛音楽	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第30回	日本の前衛音楽	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。

科目名(クラス)	作曲技法特別研究Ⅱ		開講学期	通年	単位数	2	配当年次	2
担当教員	井上 淳司	履修対象・条件	作曲領域は必修。作曲領域科目					
【授業の概要】		作曲を実践するにあたって、歴史的変遷を踏まえた過去の作曲技法を現代に生かすため、あらゆる角度の視点から考察する訓練を行いたい。						
【授業の到達目標】		既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにし、現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。						
【授業の「方法」と「形式」】		各自が持ち寄った曲を中心に、学生個々の技法に結びつけて議論を進めながら、作曲に対する意識も高めて行きたい。						
【履修時の「留意点」と「心得」】		研究を各自が独自に行い、さまざまな視点による見解を持って切磋琢磨する場を作って欲しい。そのための準備を怠らないよう積極的な授業態度を希望する。						
【成績評価の「方法」と「基準」】		平常研究50%、レポート50%。						
教科書	特になし	著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献	その都度譜面等を用意すること	著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	ロマン派初期の音楽の書法			既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。				
第2回	ロマン派初期の音楽の書法			既知のあるいは未知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。				
第3回	和声法と対位法の研究			18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。				
第4回	和声法と対位法の研究			18世紀末から19世紀中葉までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。				
第5回	シューベルト、ベートーヴェンを中心に1800年前後のヨーロッパの音楽(ドイツ、オーストリア、イタリア、フランス、等)			ドイツ以外のオーストリア、イタリア、フランス、等の音楽の状況を把握する。				
第6回	シューベルト、ベートーヴェンを中心に1800年前後のヨーロッパの音楽(ドイツ、オーストリア、イタリア、フランス、等)			ドイツ以外のオーストリア、イタリア、フランス、等の音楽の状況を把握する。				
第7回	シューベルト、ベートーヴェンを中心に1800年前後のヨーロッパの音楽(ドイツ、オーストリア、イタリア、フランス、等)			ドイツ以外のオーストリア、イタリア、フランス、等の音楽の状況を把握する。				
第8回	バッハの対位法研究			学習対位法との相違及び対位法的が曲全体の構成や構造にどう関わるかを考察する。				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	バッハの対位法研究	学習対位法との相違及び対位法的が曲全体の構成や構造にどう関わるかを考察する。
第10回	バッハの対位法研究	学習対位法との相違及び対位法的が曲全体の構成や構造にどう関わるかを考察する。
第11回	バッハの厳格フーガ研究	学習フーガとの相違及び「フーガの技法」より厳格フーガの考察をする。
第12回	バッハの厳格フーガ研究	学習フーガとの相違及び「フーガの技法」より厳格フーガの考察をする。
第13回	バッハの厳格フーガ研究	学習フーガとの相違及び「フーガの技法」より厳格フーガの考察をする。
第14回	後期ロマン派～近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。
第15回	後期ロマン派～近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。
第16回	後期ロマン派～近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。
第17回	後期ロマン派～近代音楽の書法および現代音楽への結びつき	19世紀末から20世紀初頭までのヨーロッパ圏の作曲家による音楽の和声法と対位法を譜面から読み取りながら研究をする。
第18回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第19回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第20回	現代音楽の和声および対位法的書法の研究	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第21回	ヨーロッパの前衛音楽(ドイツ、オーストリア、イタリア、フランス、ポーランド、ベルギー等)	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第22回	ヨーロッパの前衛音楽(ドイツ、オーストリア、イタリア、フランス、ポーランド、ベルギー等)	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第23回	ヨーロッパの前衛音楽(ドイツ、オーストリア、イタリア、フランス、ポーランド、ベルギー等)	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第24回	ロシアおよび北欧の前衛音楽	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第25回	ロシアおよび北欧の前衛音楽	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第26回	アメリカ大陸の前衛音楽	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第27回	アメリカ大陸の前衛音楽	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第28回	日本の前衛音楽	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第29回	日本の前衛音楽	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。
第30回	日本の前衛音楽	既知のあるいは道未知の作曲家たちの書法を明らかにし現代音楽の和声や対位法がどのように行われているか等を研究する。

科目名(クラス)	管弦楽法表現研究 I・II		開講学期	通年	単位数	各2	配当年次	1・2
担当教員	荻久保 和明	履修対象・条件	作曲領域科目					
【授業の概要】								
前期は、近・現代のピアノコンチェルトを、後期は吹奏楽作品を中心に比較演奏論とオーケストレーションの観点から作品の真実を追求する。								
【授業の到達目標】								
できるだけ複数の音源を比較考察することにより、作曲家の真実と演奏の真実を通して、作品の本質を理解する。								
【授業の「方法」と「形式」】								
レクチャー半分、残りの半分は担当教員との活発な議論である。様々な問いかけに対して、自分の意見を述べ、ディベート能力を養う。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回課題となる作品の十分な読み込みが必要とされる。</li> <li>・活発なディスカッションが理解と評価につながる。</li> </ul>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・譜面をどの程度読み込んでいるか(どのような発見があるか)という理解力とそれを伝える表現力を毎回評価する(70%)</li> <li>・自由研究のレポート提出(30%)</li> </ul>								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	プロコフィエフ: ピアノコンチェルト No.2			事前にスコアを良く読んでおくこと				
第2回	プロコフィエフ: ピアノコンチェルト No.3			事前にスコアを良く読んでおくこと				
第3回	ショスタコヴィッチ: ピアノコンチェルト			事前にスコアを良く読んでおくこと				
第4回	ハチャトリアン: ピアノコンチェルト			事前にスコアを良く読んでおくこと				
第5回	ジョリベ: ピアノコンチェルト			事前にスコアを良く読んでおくこと				
第6回	ブリテン: ピアノコンチェルト			事前にスコアを良く読んでおくこと				
第7回	ラベル: ピアノコンチェルト			事前にスコアを良く読んでおくこと				
第8回	ラベル: 左手のためのピアノコンチェルト			事前にスコアを良く読んでおくこと				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	ファリア:クラブサンコンチェルト バルトーク:ピアノコンチェルト No.2	事前にスコアを良く読んでおくこと
第10回	三善晃:ピアノコンチェルト	事前にスコアを良く読んでおくこと
第11回	矢代秋雄:ピアノコンチェルト	事前にスコアを良く読んでおくこと
第12回	松村禎三:ピアノコンチェルト No.1、No.2	事前にスコアを良く読んでおくこと
第13回	間宮芳生:ピアノコンチェルト No.1、No.2	事前にスコアを良く読んでおくこと
第14回	間宮芳生:ピアノコンチェルト No.3、No.4	事前にスコアを良く読んでおくこと
第15回	まとめ	レポート提出
第16回	リード:組曲 No.1 リヒャルト・シュトラウス:組曲 B dur	事前にスコアを良く読んでおくこと
第17回	バーンスタイン:ファンファーレ モートンゲールド:Symphony No.4	事前にスコアを良く読んでおくこと
第18回	ストラビンスキー:管弦楽のためのSymphony ストラビンスキー:ピアノと管楽器のためのSymphony	事前にスコアを良く読んでおくこと
第19回	ヒンデミット:協奏的音楽 ヒンデミット:Symphony B dur	事前にスコアを良く読んでおくこと
第20回	ホロヴィッツ:ユーフォニアム コンチェルト	事前にスコアを良く読んでおくこと
第21回	ジュリアン・ユー:ニュー アップ ビート	事前にスコアを良く読んでおくこと
第22回	グレッツキ:古いポーランドの音楽	事前にスコアを良く読んでおくこと
第23回	アラン・ホヴァネス:Symphony No.4	事前にスコアを良く読んでおくこと
第24回	カレル・フサ:打楽器と吹奏楽のコンチェルト	事前にスコアを良く読んでおくこと
第25回	リード:アルメニアンダンス	事前にスコアを良く読んでおくこと
第26回	伊藤康英:ぐるりよぎ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第27回	間宮芳生:カタロニアの栄光 間宮芳生:吹奏楽のための序曲	事前にスコアを良く読んでおくこと
第28回	福田洋介の作品(未定)	事前にスコアを良く読んでおくこと
第29回	鈴木章斗の作品(未定) 荻久保和明:カタストロフィー	事前にスコアを良く読んでおくこと
第30回	まとめ	レポート提出

科目名(クラス)	楽曲表現研究 I・II		開講学期	通年	単位数	各2	配当年次	1・2
担当教員	荻久保 和明	履修対象・条件	作曲領域科目					
【授業の概要】								
前期は近・現代のピアノソナタを、後期はピアノトリオ、ピアノ四重奏を中心に室内楽の表現と作品の真実を追求する。								
【授業の到達目標】								
できるだけ複数の音源を比較考察することにより、作曲家の真実と演奏の真実を通して、作品の本質を知る。								
【授業の「方法」と「形式」】								
レクチャー半分、残りの半分は担当教員との活発な議論である。様々な問いかけに対して、自分の意見を述べ、ディベート能力を養う。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回課題となる作品の十分な読み込みが必要とされる。</li> <li>・活発なディスカッションが理解と評価につながる。</li> </ul>								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・譜面をどの程度読み込んでいるか(どのような発見があるか)という理解力とそれを伝える表現力を毎回評価する(70%)</li> <li>・自由研究のレポート提出(30%)</li> </ul>								
教科書		著者等		出版社				
教科書		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
参考文献		著者等		出版社				
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	プロコフィエフのピアノソナタ			事前にスコアを良く読んでおくこと				
第2回	プロコフィエフのピアノソナタ			事前にスコアを良く読んでおくこと				
第3回	デュティユーとジョリベのピアノソナタ			事前にスコアを良く読んでおくこと				
第4回	ラフマニノフのピアノソナタ			事前にスコアを良く読んでおくこと				
第5回	スクリャービンのピアノソナタ			事前にスコアを良く読んでおくこと				
第6回	スクリャービンのピアノソナタ			事前にスコアを良く読んでおくこと				
第7回	ヒナステラとベルクのピアノソナタ			事前にスコアを良く読んでおくこと				
第8回	カプースチンのピアノソナタ			事前にスコアを良く読んでおくこと				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	カプースチンのピアノソナタ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第10回	グラズノフのピアノソナタ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第11回	ハチャトリアンのピアノソナタ、ソナチネ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第12回	シマノフスキーのピアノソナタ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第13回	ショスタコヴィッチのピアノソナタ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第14回	ストラビンスキーのピアノソナタ メネルのピアノソナタ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第15回	まとめ	レポート提出
第16回	ベートーヴェンのピアノ四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第17回	ドヴォルザークのピアノ四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第18回	シューマンのピアノ四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第19回	ブラームスのピアノ四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第20回	サン・サーンスのピアノ四重奏(No.1、No.2)	事前にスコアを良く読んでおくこと
第21回	フォーレのピアノ四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第22回	ショーソンとコーブランドのピアノ四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第23回	R.シュトラウスのピアノ四重奏	事前にスコアを良く読んでおくこと
第24回	ドビュッシーとラベルのピアノトリオ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第25回	フランクとフォーレのピアノトリオ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第26回	ラフマニノフのピアノトリオ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第27回	ショスタコヴィッチのピアノトリオ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第28回	ラロとショーソンのピアノトリオ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第29回	武満徹とアイブスのピアノトリオ	事前にスコアを良く読んでおくこと
第30回	まとめ	レポート提出

科目名(クラス)	作曲楽書特別研究		開講学期	通年	単位数	4	配当年次	1・2
担当教員	上山 典子	履修対象・条件	作曲領域科目					
【授業の概要】								
<p>本授業では英語で書かれた文献(音楽書、理論書、音楽事典の項目、演奏会の楽曲解説など)を読むことで、その内容的理解を深めていきます。<i>The Harvard Dictionary of Music</i>や<i>The New Grove Dictionary of Music and Musicians</i> 第2版などの音楽事典から20世紀以降の作曲家(邦人作曲家を含む)や作品、音楽用語の項目のほか、20世紀を中心とする作品の楽曲解説、CDの解説書、論文等を取り上げます。</p> <p>ただし、履修者の専門、興味関心、語学力によっては、扱うテキストおよび下記の授業内容を変更する可能性があります。</p>								
【授業の到達目標】								
<p>履修者は年間の授業を通して英語による音楽書を読むことに慣れ、日本語で書かれた文献からだけでは得られない知識を獲得することで、音楽的視野を広げることを目指します。また、英語圏の文献で日本の現代音楽や作曲家がどのように解説されているのかを知ること、世界における我が国の音楽事情や音楽文化における位置づけについて考える機会とします。</p>								
【授業の「方法」と「形式」】								
英語文献を履修者全員で輪読します(演習形式)。								
【履修時の「留意点」と「心得」】								
毎回、予習が必要です。								
【成績評価の「方法」と「基準」】								
毎週の予習状況(50%)、および学年末に行う筆記試験(50%)								
教科書	(毎回プリントを配布します)		著者等		出版社			
教科書			著者等		出版社			
参考文献	英語圏の音楽事典など(授業中に随時紹介)		著者等		出版社			
参考文献			著者等		出版社			
【授業計画・内容・準備学習】								
回数	授 業 内 容			準備学習(予習・復習)				
第1回	【前期】 音楽史関連の英語文献紹介、各国における『音楽事典』出版史			予習:音楽史の時代区分について確認する 復習:様々な音楽事典を図書館で確認する				
第2回	『New Grove 音楽事典』の項目「20世紀」(世紀前半)			予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す				
第3回	『New Grove 音楽事典』の項目「20世紀」(世紀前半つづき)			予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す				
第4回	『New Grove 音楽事典』の項目「20世紀」(世紀前半)			予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す				
第5回	『New Grove 音楽事典』の項目「20世紀」(世紀後半つづき)			予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す				
第6回	New Groveの講読内容を踏まえ、20世紀の音楽史・音楽文化について検討、議論			予習:20世紀音楽史の変遷を見直す 復習:音楽史における20世紀について考える				
第7回	英語圏の音楽事典から、20世紀の作曲家「ストラヴィンスキー」(仮)の項目を読む①			予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す				
第8回	「ストラヴィンスキー」の項目②(第二次世界大戦前)			予習:単語の意味調べ 復習:授業で取り上げた部分を読み直す				

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第9回	「ストラヴィンスキー」の項目③(大戦後の活動について)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第10回	「ストラヴィンスキー」の項目④(作品一覧、備考、死後の評価)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第11回	「ストラヴィンスキー」の講読内容を踏まえ、この作曲家や音楽様式、社会における位置づけについて検討、議論	予習: 作曲家と社会の関係について考える 復習: ストラヴィンスキー以外の作曲家と20世紀社会について考える
第12回	英語圏の音楽事典から、20世紀の作曲家「ショスタコーヴィチ」(仮)の項目を読む①	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第13回	「ショスタコーヴィチ」の項目②(スターリン時代)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第14回	「ショスタコーヴィチ」の項目③(ポスト・スターリン時代)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第15回	ショスタコーヴィチとソヴィエト連邦の音楽状況について検討、議論	予習: 作曲家と政治の関係について考える 復習: ソ連以外の事例についても考える
第16回	【後期】 演奏会における「プログラム・ノート」の歴史的解説	復習: 演奏会史の概略を確認する
第17回	新ウィーン楽派の作品解説(19世紀末の大規模管弦楽曲)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第18回	新ウィーン楽派の作品解説(無調作品)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第19回	新ウィーン楽派の作品解説(12音技法による作品)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第20回	ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第3番(第1楽章)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第21回	ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第3番(第2楽章)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第22回	ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第3番(第3楽章)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第23回	武満徹(またはその他の邦人作曲家)の作品解説①	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第24回	武満徹(またはその他の邦人作曲家)の作品解説②	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第25回	『New Grove 音楽事典』の「Japan」の項目について解説	予習: 配布資料に目を通す 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第26回	「Japan」の項目を読む①(明治時代の洋楽受容期)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第27回	「Japan」の項目を読む②(大正～昭和前半)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第28回	「Japan」の項目を読む③(第二次世界大戦後)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第29回	「Japan」の項目を読む④(1980年代以降の日本における西洋音楽について)	予習: 単語の意味調べ 復習: 授業で取り上げた部分を読み直す
第30回	筆記試験および内容確認(授業前半に試験を行い、後半には履修者全員で内容確認をします)	予習: 試験の準備 復習: 試験の内容を読み直す

科目名	ピアノ特別演習 I	
【授業計画の概要】		
<p>学生の研究テーマを指導教員と共に検討し共有する。各学生の持ち味を大切にしながら、テーマに沿って演奏力を高め、レパートリーを広げるための指導を行う。「院一コンサート」が1年次の成果の発表の場となる。さらにウィーンにおいても研修を行う。</p>		
【授業の到達目標】		
<p>これまで修得してきた演奏力と知識、そして経験を基礎とし、各学生が掲げた研究テーマに沿って、より専門的に深めていく。高度な演奏技術を修得するとともに、楽曲についてさまざまな角度から研究することによって、作曲家の意図することを的確に理解し演奏表現に反映することが出来るようになる。</p>		
【成績評価の方法】		
<p>演奏力とレッスンへの取り組みを総合して評価する</p>		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4		
5	<p>指導教員とこれから2年間の学修計画をたてる。 楽譜の版の比較研究をする。 取り組む作品に係わる資料を集め、歴史的背景などを把握する。</p>	
6		
7		
8	<p>演奏するにあたって、和声・形式など多角的に研究する。 その作品に合った奏法や表現法を探る。 「院一コンサート」の演奏曲目を決める。</p>	
9		
10		
11	<p>作品の社会的背景や作曲家について理解する。 作品を分析することにより、さらに高度な表現を目指す。 聴衆のことも含めステージに立つことの意義を考える。 「院一コンサート」で演奏する。</p>	
12		
1		
2	<p>ウィーンでの研修においては積極的に視野を広げ、自身の研究に役立てる。 1年次に学んだことを振り返る。 修士論文のテーマと修士学位審査修了演奏会の曲目を探る。</p>	
3		

科目名	ピアノ特別演習Ⅱ	
【授業計画の概要】		
研究テーマに沿った修士論文の作成と修士修了演奏会に向けて準備を行う。修士に相応しい内容とするため、実技指導教員に加え、理論系の教員の指導も仰ぐ。		
【授業の到達目標】		
1年次で学んだことを踏まえ、修士論文の作成と修士修了演奏会に向けて、広い視野と深い考えを持って取り組んでいけるようになる。		
【成績評価の方法】		
修士論文と修士修了演奏が学位審査の対象となる。		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	修士論文のテーマと修士修了演奏の曲目を決定する。 使用楽譜の版の比較研究をする。 論文のための資料を収集する。 資料を通して、演奏曲目の概要を把握する。 論文作成の計画をたてる。	
5		
6		
7	作品を細かく分析し、和声・形式・様式などから表現法を探る。 演奏技術、音色についても改めて考察する。 修士論文を計画的に進める。	
8		
9		
10	修士論文を提出する。 「修士修了演奏会」に向けて、さらに深く追求していく。	
11		
12		
1	論文審査を受ける。 論文の内容も演奏に生かし、本番への準備をする。 ホールの音響や空間を考慮して演奏を仕上げる。 「修士修了演奏会」で演奏する。	
2		
3		

科目名	声楽特別演習 I	
【授業計画の概要】		
<p>音楽特別演習 I においては、これまでに培われてきた声楽における基礎的訓練を発展させ、さらに高度な音楽表現に応えられる演奏技術の習得を個人レッスンにより追及し研鑽を積む。加えて高度な声楽技術・正確かつ幅広い学術に裏づけされた読譜力・客観性・解釈力を養う。 12月に公開演奏「院ーコンサート」が行われる。</p>		
【授業の到達目標】		
<p>自己の持つ音楽能力・技術の上達の為に努力し、どの様なレパートリーが合っているか知っていく。</p>		
【成績評価の方法】		
<p>研究成果を総合的に評価する。</p>		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	<p>◎より高度な声楽技術の習得を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発声法の充実</li> <li>・大学4年間で身に付けた基礎力を客観的に見直し、成熟させていく</li> <li>・歌唱に適切な正確なディクッションについて平行して研究を進める</li> </ul>	
5		
6		
7	<p>◎声に適切なレパートリーを研究し、研鑽を積む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の声に合わせたレパートリーを検討し、それを習得して行く</li> <li>・オペラ、歌曲、宗教曲の分野に対応する為の技術、語学、様式感の習熟を目指す</li> <li>・多様な曲への取り組みにより、読譜力、解釈力を養う</li> </ul>	
8		
9		
10	<p>◎院ーコンサート及びウィーン研修への準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大ホール、グランツザールにおける公開演奏「院ーコンサート」が12月に行われる。声楽特別演習 I の集大成としてプログラムを構成し、その成果を問うものである。「院ーコンサート」と平行してウィーン研修の準備を進める。</li> </ul>	
11		
12		
1	<p>◎ウィーン研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月にウィーンに渡り、アカデミーにおいて研修を行う。「発声法」「歌唱指導」「朗読法」等の授業を経て「修了コンサート」を行う。</li> </ul>	
2		
3		

科目名	声楽特別演習Ⅱ	
【授業計画の概要】		
<p>声楽特別演習Ⅱにおいては、演習Ⅰでの研究をさらに深め、実際の演奏を想定したレパートリーを作成していく。 2月に修了演奏会を行う。</p>		
【授業の到達目標】		
<p>個々の声の特性を考慮したプログラムのもと音楽様式・技術・表現への研究を重ね、公開演奏をする事により、将来の演奏への糧とする。</p>		
【成績評価の方法】		
<p>研究成果を総合的に評価する。</p>		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	<p>◎レパートリー研究を進める 個々のレパートリーの方向を見出して行くが、演習Ⅱではさらに専門的に掘り下げていく。幅広い声楽分野に対応できると共に、特定の分野を専門的に深め磨いて行く事も重要である。</p>	
5		
6		
7	<p>◎音楽表現の研究 演奏技術を礎として音楽表現を身に付けるために作品解釈、様式への知識、更に豊かな感性が必要である。 音楽に欠くことのできない言語表現への研鑽と共に音楽表現への研究を進める。</p>	
8		
9		
10	<p>◎修了演奏会のプログラム作成及び研究 声楽特別演習Ⅰ・Ⅱの集大成としてのプログラム作成を行う。個々の声の特性を考慮したプログラム設定である事。 調性、テンポの緩急などプログラム構成についても研究をする。</p>	
11		
12		
1	<p>◎修了演奏会 修了演奏会に向けて、伴奏者とのアンサンブルを緊密にして、担当教官の指導のもと演奏の充実をはかる。 公開で行われる「修了演奏会」は声楽特別演習Ⅰ・Ⅱでの研究成果を問うものである。</p>	
2		
3		

科目名	管弦打楽器特別演習 I			
【授業計画の概要】				
1年次においては大学4年間で築き上げた「基礎・応用技術」の更なる修得に加え、独奏曲研究・オーケストラスタディーを中心にクオリティーの高さを目指す。また、特殊奏法や、特殊楽器の奏法等の研究も行う。 また、コンクール・オーディション対策や指導法に対する研究も組み入れる。				
【授業の到達目標】				
授業内容を深く修得し、演奏能力を更に向上させる。				
【成績評価の方法】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レッスンに取り組む姿勢50%</li> <li>・レッスンの成果50%</li> </ul>				
【授業計画の内容】				
月	内 容			
4	(前期) ・基礎奏法・応用奏法の更なる修得 ・特殊奏法の修得 ・楽曲(独奏曲)研究、及びメソッド・エチュード研究 ・オーケストラ・スタディー ・コンクール・オーディション対策 ・指導法研究 ・ウィーン研修のための楽曲研究 ・1年次生演奏会(院1コンサート)のための楽曲研究			
5				
6				
7				
8				
9				
10			(後期) ・基礎奏法・応用奏法の更なる修得 ・特殊奏法の修得 ・楽曲(独奏曲)研究、及びメソッド・エチュード研究 ・オーケストラ・スタディー ・コンクール・オーディション対策 ・指導法研究 ・ウィーン研修のための楽曲研究 ・点検と評価、及び来年度に向けての計画作成	
11				
12				
1				
2				
3				

科目名	管弦打楽器特別演習Ⅱ			
【授業計画の概要】				
2年次においては、大学4年間及び、大学院1年間の集大成というコンセプトの基にあらゆる要素の完結を目指す。「基礎奏法」「応用奏法」「特殊奏法」のさらなる修得に加え、1年次に引き続きコンクール・オーディション対策や研究を行う。				
【授業の到達目標】				
授業内容を深く修得し、演奏能力を更に向上させる。				
【成績評価の方法】				
実技試験による成績100%				
【授業計画の内容】				
月	内 容			
4	(前期) ・基礎奏法・応用奏法・特殊奏法の更なる修得 ・楽曲(独奏曲)研究、及びメソッド・エチュード研究 ・オーケストラ・スタディ ・コンクール・オーディション対策 ・指導法研究 ・学位審査修了演奏会のための楽曲研究			
5				
6				
7				
8				
9				
10			(後期) ・基礎奏法・応用奏法・特殊奏法の更なる修得 ・楽曲(独奏曲)研究、及びメソッド・エチュード研究 ・オーケストラ・スタディ ・コンクール・オーディション対策 ・指導法研究 ・学位審査修了演奏会のための楽曲研究 ・2年間の点検と評価 ・修了後の演奏活動、指導活動に対する基本的コンセプトの確立	
11				
12				
1				
2				
3				

科目名	作曲特別演習 I	
【授業計画の概要】		
院1コンサートでの発表作品を中心に創作活動を行う。ピアノ、声楽、管弦打の院生のメンバーを考慮に入れて室内楽作品を制作する。 合わせて、難易度の高い和声、厳格フーガ、合唱曲の創作・オーケストラの研究も行う。		
【授業の到達目標】		
院1コンサートで演奏可能なソロ～10人以内の室内楽を創作する。その際、その作品のコンセプトを明確にし、表現の可能性を追求すること。		
【成績評価の方法】		
実技試験による		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4		
5	高等和声・厳格フーガ・合唱曲の創作 オーケストラの研究	
6		
7		
8	"	
9		
10		
11	院1コンサート用作品の創作及び提出	
12		
1	吹奏楽、各種コンチェルト、合唱付き管弦楽曲のオーケストレーションの研究	
2		
3		

科目名	作曲特別演習Ⅱ	
【授業計画の概要】		
<p>修士作品の創作を中心に行う。                  可能な限り、日本及び海外へのコンクールへも積極的に参加させる。                  ゲーム、ドラマ、映画音楽などメディア対応作品の研究も深め、グローバル化への対応とする。</p>		
【授業の到達目標】		
<p>修了演奏で可能な形態の室内楽及び修了作品として、ふさわしいオーケストラの作品を創作する。                  何を書きたいか、何で書くべきか、何のために書くのか、それぞれの表現の可能性を追求すること。</p>		
【成績評価の方法】		
<p>実技試験による</p>		
【授業計画の内容】		
月	内 容	
4	ゲーム音楽、ドラマの音楽、映画音楽の研究と試作品制作	
5		
6		
7	修士作品及びコンクール参加作品の制作	
8		
9		
10	修士作品及びコンクール参加作品の制作	
11		
12		
1	修士作品及びコンクール参加作品の制作	
2		
3		